日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌［アクエドゥクト］
www.acueducto.jp

acueducto

2018
34
31-julio

特集

LAS CORRIDAS DE TOROS —闘牛—

話せる楽しさを実感しながら、
スペイン語を身に付けよう！

スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

アデランテで学ぶ理由

スペイン語専門の教室

教室の中はスペイン一色！スペイン直輸入の書籍もたくさん販売しております。

講師は全員ネイティブ

スペイン出身の講師だから、留学気分でスペイン語を学べます。

グループレッスンは振替制度あり

欠席しても安心です。事前にお知らせいただければ、他のクラスのレッスンを受講いただけます。

イベントもりだくさん！

生徒さん同士の交流も盛んです。皆さんスペイン・中南米好きなのですぐに仲良くなれますよ！

初心者対象の新しいクラスなので初めての方でも安心です。

スペイン語入門クラス開講

申込み受付中

大阪校

開始日	曜日	時間帯		
7/30～	月			18:30～19:20
7/31～	火	10:30～11:20		
8/1～	水			19:30～20:20
8/2～	木		12:30～13:20	20:30～21:20
8/4～	土		13:30～14:20	

神戸校

開始日	曜日	時間帯		
8/1～	水		14:30～15:20	
8/2～	木			17:30～18:20
8/3～	金			18:30～19:20
8/4～	土		12:30～13:20	

体験レッスン当日にお申し込みで
入会金無料
（10,800円）

1レッスン：50分
[受講料]
3,680円 / 回
（月謝制）
[教材費]1,944円
各クラス定員6名

●まずは上記の各曜日の中から、ご都合の良い時間帯をお知らせください。
日程が合わない方や、その他の曜日・時間をご希望の方は、お気軽にご相談ください。
●学習経験者の方は、まずは体験レッスンをご予約ください。
体験後、レベル別のレッスンの時間割をご案内いたします。

携帯・スマホから
こちらのQRコード
からWEBへ

お申し込み・お問い合わせ

大阪校
TEL:06-6346-5554
大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館2F
JR大阪駅より徒歩6分

神戸校
TEL:078-230-2022
神戸市中央区磯辺通1-1-18
カサベラ国際プラザビル9F
JR三ノ宮駅より徒歩8分

info@adelante.jp

子供向けクラス

Curso para niños

スペイン語の歌・絵本・ゲームなどを通して、楽しみながらスペイン語に触れるレッスン

神戸校のみ開催

日程　毎週土曜日（単発申込可）

時間割　3才～小2：10:30～11:20
小3～小6：11:30～12:20

参加費　3,500円

お申し込み
お問い合わせ
神戸校

スペイン語入門　夏の集中コース（5日間 / 全20回）

入門 OSAKA

［対　象］ これからスペイン語を始めたい方
［料　金］ 77,760円
［日　程］ 8月13日（月）～8月17日（金）
［時間割］ ①12:30～13:20
②13:30～14:20
〈休憩〉
③15:30～16:20
④16:30～17:20

お盆休みを利用して、スペイン語を入門から一気に次のレベルまで学ぶための集中コースです。スペイン語に興味があるけれど、普段はなかなか時間の取れない方や、短期間でゼロから学習したい人にオススメ。
1日4コマの授業で毎日スペイン語を話し、聞き、身につけて、留学気分で学習しましょう！

受講特典
教科書
プレゼント

¡Qué divertido aprender español en ADELANTE!

スペイン語特別クラス

入会不要、一般の方も参加できます。

大阪校＆神戸校

お問い合わせ

info@adelante.jp

大阪校
TEL:06-6346-5554

神戸校
TEL:078-230-2022

Club de Vinos de ADELANTE vol. 5 第5回 ADELANTE ワインクラブ

¡Vamos a beber!

文化 OSAKA

8月4日（土）13:30～15:20
［担当］ミケル
［対象］誰でも
［料金］5,000円

スペイン特産の美味しいワインのテイスティングを楽しみましょう！数種類のワインを試飲しながら原産地の風土や文化を学びます。

スペイン語がわからなくても大丈夫です。スペイン語と日本語両方で解説いたします。

参加者に抽選で当たる！
「AITANA WINE HOUSE」の
ワイン1本贈呈

協賛

女性一人でも気軽に行ける、カジュアルなワインショップ
「AITANA WINE HOUSE」
〒651-0092
兵庫県神戸市中央区生田町2-6-13 1F
（JR三ノ宮駅より徒歩10分）
TEL：078-251-1600
営業時間10:30～21:00 無休
（年末年始を除く）

路上アート

文化 OSAKA

7月28日（土）10:30～11:20
［担当］マルタ
［対象］A2以上
［料金］受講生 3,000円 / 一般 3,500円

路上アートはスペインや中南米の至るところで見られる風物詩。なぜそれは若者の心をとらえて離さないのでしょうか？このクラスで、作品や有名アーティストについて見聞を広めましょう。

スペイン語でディベート

会話 OSAKA

8月10日（金）19:30～21:20
［担当］アレハンドロ
［対象］B2以上
［料金］5,400円

¡En ADELANTE es muy fácil aprender español!

ニュース、社会、流行、生活など、身近にある様々な話題について、スペイン語でディベートしてみましょう。自分の意見を積極的に発表する訓練ができます。DELE面接対策にもおすすめです。

諺と慣用表現

会話 KOBE

9月29日（土）13:30～14:20
［担当］エレナ
［対象］A2以上
［料金］受講生 3,000円
一般 3,500円

スペイン語の面白い諺を知りたくありませんか？スペイン語圏の人たちは表現豊か！いろんな物の例えで状況を説明します。彼らの使う慣用表現を学んでおくと、ネイティブとのおしゃべりもよりいっそう楽しくなります！

アンダルシア弁を学ぶ

文化 KOBE

9月15日（土）13:30～14:20
［担当］エレナ
［対象］A2以上
［料金］受講生 3,000円
一般 3,500円

関西弁と同じで、アンダルシア人の話す言葉やイントネーションは独特！地元出身のエレナ先生がレクチャーします。

マルタ先生の文法講座 過去形の用法

文法 OSAKA

8月22日（水）17:30～18:20
［担当］マルタ
［対象］A1+～A2
［料金］受講生 3,500円
一般 4,000円

¡Vamos a estudiar!

初級文法の重要項目である過去形（点過去、線過去、現在完了形の使い分け）を、マルタ先生としっかり学習しましょう！復習にもおすすめ。

・価格は全て税込です。
・お申込前に必ず開講する校舎をご確認ください。
・ADELANTEの受講生は、大阪校・神戸校どちらのクラスも受講生価格でお申込いただけます。
・クラスへのお申込・お支払は開講日の前日まで。お申込後のキャンセルは返金いたしかねますのでご了承ください。

バルセロナで質の高いスペイン語コースを

International House Barcelona

スペイン語を学びながら、
観光をしたり友達を作ったりしませんか。

質の高い教師陣のもと実生活にすぐに活かせるコミュニケーション中心の楽しい授業を受けてみませんか。

世界中から集まる生徒達

バルセロナの中心地

お問い合わせ
日本人カウンセラー
佐藤朱美: asato@bcn.ihes.com

www.ihes.com/bcn

Centro Acreditado

fedele

ACCREDITED Eaquals Excellence in Language Education

右記の学校でも
スペイン語コースを
受けることができます。

PALMA MALLORCA
スペイン

BOGOTÁ
コロンビア

PLAYA DEL CARMEN
リヴィエラマヤ
メキシコ

International House VIVA Group
www.viva-group.info

Sumario

7 特集
闘牛 Las corridas de toros

16 ルシア・フレイタス 来日ルポ
スペインのリアスから日本のリアスへ、愛を込めて　文　渡辺万里

21 バレンシアのワイナリー巡り 01　文・写真　篠田有史

24 Moda española vol.2
バルセロナのモードを知る ―ナチュラル・シックな服に秘めた情熱「Sita Murt」―
文　井上礼

26 スペイン留学.jp
「スペイン語留学」しよ！ 留学の心構え

32 ADELANTEのスペイン語レッスン

初級　スペイン語で話そう　Lección 16
～だと思います。

34 実践　Español práctico vol. 10
ギフトチケット

36 中級　スペイン語講座 Lección 34
条件の接続詞 si 等の表現について (2)　文　仲井邦佳

38 上級　ビジネススペイン語 vol. 15
法務関連の用語　文　伊藤嘉太郎

40 イラスト解説　スペイン語 慣用表現 vol. 5
4対8個 Empresario 企業主・事業家

41 España y Japón 日本とスペインをつなぐ人びと 3º
村岡紹子（バイオリン奏者）　インタビュー・文　中村美和

42 音楽の時間
スペイン◆舞踊と音楽の物語 その2　文　下山静香

44 おススメ Libros
『裸足のピアニスト』
下山静香　著 / 書評　川成洋
『新西班牙語事始め スペイン語と出会った日本人』
浅香武和　著 / 書評　川成洋

45 スペイン味うぉっちんぐ 第2回　文・写真　片岡治子

46 水彩画だより スペインの風景に魅せられて vol. 5　文・絵　牧瀬貢
スペインのお勧めバール・レストラン vol. 20　文・写真　中村美和

47 インスティトゥト・セルバンテス東京 イベントレポート
元ロードレーサー、ペリーコ・デルガド氏来日　文　ヴィルジーリオ麗奈

48 日西商業会議所
美術展「Este-Oeste 2018」東西の美をめぐる旅

Estimados Señores
―読者の声―

acueducto 編集部では、皆さまからのメール・お便りを募集しています。スペイン情報誌 acueducto へのご意見・ご感想のほか、スペインにまつわるエピソードもお寄せください。

1. お名前（ペンネーム）※匿名希望の場合は、その旨を明記ください
2. お住まい
3. ご連絡先
4. メッセージ

写真入りのお便り・メールも大歓迎です

宛先：
有限会社 ADELANTE
〒530-0001　大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2F
info@acueducto.jp

・お寄せいただいたメッセージは、これからの誌面制作の参考にさせていただきます。また、acueducto 誌面や弊社ホームページ、宣伝物に掲載させていただく場合がありますので、掲載を希望されない場合は、「非公開希望」と明記ください。なお掲載にあたっては、文章の一部削除・変更させていただく場合がありますのでご了承ください。
・いただいた個人情報は上記以外の目的では使用いたしません。
・お便り・メールへの個別のお返事は差し上げておりません。
・お送りいただきましたお便り・写真は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

© Jacques Rouquette

acueducto 34

スペイン無料情報誌
julio 2018 vol.34
printed in Japan / FREE PAPER

発行元：
有限会社 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2 F
Tel：06-6346-5554　Fax：06-6110-5122
info@acueducto.jp
www.acueducto.jp

ADELANTE Co., Ltd
2FL. Chiyoda Bldg. West Annex 2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka
530-0001 Japón

www.facebook.com/acueducto.japon
@acueducto_japon

本誌の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌の内容および広告に関しては、発行元の責任の限りではありません。
本誌は一切の転売を禁じております。

Director：編集長
Shoji Bando / 坂東省次

Editor：発行
Alejandro Contreras / コントレラス・アレハンドロ

Coordinación：編集
Nagisa Miyata / 宮田渚

Diseño：デザイン
Koichi Hayashi / 林コイチ

Colaboradores en este número：今号の執筆・校正協力
Rei Inoue / 井上礼
Kaname Ikemoto / 池本かなめ
Yoshitaro Ito / 伊藤嘉太郎
Reina Virgilio / ヴィルジーリオ麗奈
Katsuyuki Ogiuchi / 荻内勝之
Haruko Kataoka / 片岡治子
Yo Kawanari / 川成洋
Elena Contreras / コントレラス・エレナ
Yuji Shinoda / 篠田有史
Shizuka Shimoyama / 下山静香
Francisco Torregrosa / トレグロサ・フランシスコ
Kuniyoshi Nakai / 仲井邦佳
Miwa Nakamura / 中村美和
Mitsugu Makise / 牧瀬貢
Mari Watanabe / 渡辺万里

Colaboradores:

www.enforex.com

スペインとラテンアメリカにて

最先端を行くスペイン語学校

創立 1989年

Enforex

Enforex · Centro de Estudios Internacionales

認定校:

Instituto Cervantes
Centro Acreditado

12
スペインの
アカデミック
センター

10
スペイン、
メキシコ、
コスタリカでの
サマーキャンプ

20
ラテン
アメリカの
研修都市

32
スペインでの
大学、
ファウンデーション
プログラム

ヘッドオフィス
Alberto Aguilera, 26 | 28015 Madrid
Phone: +34 91 594 37 76
Fax: +34 91 594 51 59
E-mail: asia@enforex.es

ideal education group

アリカンテ | バルセロナ | カディス | グラナダ | マドリッド | マラガ | マルベージャ | パンプローナ | サラマンカ | セビージャ | テネリフェ | バレンシア（スペイン）
アルゼンチン | ボリビア | コロンビア | コスタリカ | チリ | キューバ | ドミニカ共和国 | エクアドル | ガテマラ | メキシコ | ペルー（ラテンアメリカ）

© Jacques Rouquette

LAS CORRIDAS DE TOROS

スペインの雄牛遊戯コリーダ。「光の衣装(El traje de luces)」という固有のコスチュームに身を包んだマタドールと、赤いマレータに突進する黒い雄牛は、この国のある種の象徴だ。マドリードの街中には、闘牛愛好家たちが集うバルが点在する。ロンダの闘牛場の向かいには、この郷出身の闘牛士の名を冠したレストランがある。セビーリャの景観を、老舗の内装を、古い闘牛ポスターや歴代の闘牛士たちの肖像画が彩なしている……。

雄牛を翻弄する者たちは、この国でなぜ英雄たり得たのか。闘牛士の生き様を称揚していた芸術家たちは、彼らの何に惹かれ、砂上の死闘をいかに解釈したのか。コリーダの歴史的変遷とその役割を、これから探ってみよう。

「アンダナーダ」で考えた

Pensamiento en la andanada

TEXTO = Katsuyuki Ogiuchi

後楽園球場が東京ドームではなかったころ、しばしば、プロ野球のナイター試合を見た。巨人戦はいつも満員だから避け、他を外野席で見た。外野席は空にひろがって、そばの客は宵の明星だけだったりした。そこで本を読む。打ったり投げたりが読書の妨げになることはない。河原で子等が遊ぶのを堤防からを見るようなものだ。外野フライは、中空をかすめとぶ鳥であった。あれから数十年、このごろはマドリードで闘牛を最上段の席でみる。出場する闘牛士や牛の牧場などの予備知識はもたない。闘牛は、たいてい、闘牛士３人が出て、1頭ずつ、順に、交替で、6頭を相手にする。しめて２時間。

マドリードの闘牛場は、まん丸の円形だ。牛と人がふむアレーナも円形で、直径は65m。観覧席の最上段はアンダナーダ席という。最上段の全周を占め、屋根が付いている。屋根があるのはアンダナーダのみ。日光の直射をうけるソル側でもアンダナーダには屋根がある。屋根の幅はほぼ4メートル。軍艦が両舷から大砲を一斉に発射するのを andanada というらしい。砲身が窓の庇をかぶって並ぶさまに見立てたか。マドリードのベンタス闘牛場だけで使われる名である。闘牛を、年中、日曜日ごとにやるところは、現在、ベンタス闘牛場だけだ。アンダナーダには日曜毎の常連が多い。特典は闘牛場の全貌が鳥瞰できることだろう。

そのアンダナーダで、ある日考えた。現在の闘牛場は、なぜ円形が多いのか。昔は四角形か多角形だった。現在も四角形や多角形でやることがあるが、円形が主流になったのはいつで、なぜか。

遡れば、スペインではキリスト教以前から牛を贄に供えていた。牛を豊富なタンパク質源として崇め、狩って屠って食す儀式をつくった。同じことにありつけますようにとの願掛けだ。スペインに牛が多くいたからその習わしができたのか。逆だ。アルタミラの人々は、毎日のように牛狩をしたのではない。稀少な牛を、村人が総出で狩り、1頭1頭をありがたくちょうだいして、あのように壁画に残した。

スペイン人が食す畜肉の量は、ヨーロッパで最少であった。400年前のロンドンで1人が1日で食す肉の量はマドリードの1人の1年分に相当した。当時、英国艦隊のビスケットは牛由来のバターで捏ね、スペイン艦隊のビスケットはオリーブ油を

撮影：足立由香里

使った。スペインの家畜の代表は羊であった。羊毛が売れた。国民は、羊を食べず、羊が毛を売って国民を食べさせていた。羊はなんでも我が物顔で食み、牛は山中で餌を探して野生のように育った。そんな牛が、深夜の崖っぷちの隘路を、風雨にさらされながら歩くのを見た。両足をおく幅がないので内股で歩いていた。かく鍛えられた雄牛を、祭りが近づくと集落の囲い場にさそいこみ、当日、中央広場へ移した。広場は建物に囲まれた四角形か多角形。周りから町中が見守る中で牛は殺される。みんなが屠殺の目撃証人であり、みんなで贄を食す。当時も今も、この儀式の場をプラサ plaza という。特に、プラサ・マヨールという町が多い。人々は引き出された牛を品評し、不具や損傷を認めると普通の屠殺にまわす。贄になる牛に、容姿の美と凛々しさを贅沢なまでに求めるのだ。

闘牛士は騎馬で、馬上から牛を槍で突いた。止めを刺せない場合は馬をおりて剣で刺すこともあるが、徒歩の従者が剣で仕留めることもあった。鉄砲の時代の平時の騎士に騎馬闘牛は難しくなっていた。馬の数も激減し、軍事に差し支えるようになっていた。そこで、1570 年ごろ、国王の肝煎りで軍事用の馬術教練を強化する団体 Real Maestranza de Caballería が結成された。有力な貴族の講社組織であるが、厳格な運営で騎馬闘牛を盛り立てた。1572 年にロンダの教練団体がその最初で、100 年後にセビーリャ、グラナダ、バレンシアと相継ぎ、サラゴサでも、それまでの類似団体が 1819 年に Real Maestranza de Caballería を結成した。

しかし、どの講社が催す闘牛も場所はずっと四角形の広場であった。いっぽう、そのあいだに、1730 年ごろから、貴族や騎士身分ではなく平民の、馬丁や屠殺人が、剣で牛を仕留めるまでを徒歩でこなし、ヒーローやスターになっていた。プロの徒歩闘牛士の誕生だ。騎馬闘牛も続いてはいたが、騎士の教練や遊戯の域を出ず、徒歩の平民が闘牛の主役になっていた。しかし、プロとなると、稼がねばならず、公式の儀式だけでは十分ではないので、見世物としても演じるようになった。その際、儀式は名目に留まる。「これから仕留める雄牛を町の皆さんに捧げる」と宣言はするが、実はそうはならず、見世物興行として日常化していき、それにつれて、広場闘牛の弱点がはっきりしてきた。中央広場は、人は集まりやすいが、アレーナが角ばっていては席によって見え方の不公平が大きい。また、四角い広場の隅に生じる吹き溜まりを牛が避難場と心得て閉じこもるとか、アレーナは舗石に砂をまいた程度なので牛も馬も人も滑ったり転んだりする。さらには、市街での馬車の出入りが制限されて闘牛士の入場が遅れたりする。というわけで、あちこちで郊外に闘牛場が新設されたが、アレーナ部分は四角形、多角形と円形の可変式が多く、新設で、建物もアレーナも円形そのものという闘牛場はマドリードが最初であった。やがて、都市の闘牛場はすべて円形になるが、わたしはいま、ベンタス闘牛場の最上段席アンダナーダにいて、そのアレーナの円さの効用を書ききれなかったことを悔やんでいる。

荻内勝之 / Katsuyuki Ogiuchi
1943年ハルビン生。神戸市外国語大学イスパニア学科卒、バルセロナ大学文学部イスパニア研究科卒、神戸外大大学院修士課程修了、スペイン文学者、東京経済大学名誉教授。東京闘牛の会 TENDIDO TAURO TOKYO 会長。主要著書・翻訳書:『ドン・キホーテの食卓』(新潮社)、『コロンブスの夢』(新潮社)、『スペイン・ラプソディ』(主婦の友社)、『おっ父っちんが行く』(福音館日曜日文庫)『ドン・キホーテ』全4巻(新潮社)他。

© Jacques Rouquette

闘牛はどこから来たか

¿DE DÓNDE VIENEN LAS CORRIDAS?

コリーダはいつからスペインの伝統文化となったのか？

TEXTO = Nagisa Miyata

雄牛信仰：男性性の象徴としての雄牛

地中海周辺地域では旧石器時代から古代ローマ時代にかけて、牛が主題の絵画や彫刻が絶えず生産されていた。イベリア半島でも1万数千年前のアルタミラ洞窟壁画に描かれたバイソンのほか、各地で牛を形どった石像や石版画が発掘されている。古代人は特に逞しい雄牛を男性性の象徴として捉え、この動物に接触することにより生殖力や豊穣の力を得ようとしたようだ。スペインの地方の村々にも、牛にまつわる伝承や儀式の記録が残っている。たとえば少女が一角牛の魔力で男子になる「ウリケルノ伝説」や、牛は不妊に対抗する生殖の力を持つとされる「黄金の牛」といった伝承、またエストレマドゥーラでは、婚礼の場において花婿と仲間が闘牛（銛で刺したり、上着などの布で注意を惹きつけたり）をしながら花嫁のところまで走るという風習が20世紀初めまで残っていたという。こうした各地の雄牛信仰や風習が現在のコリーダに直接的に結びついたというわけではないが、パンプローナの牛追い祭に代表されるように民間闘牛が盛んに行われており、イベリア半島が古くから雄牛を祝祭の動物として特別視する土壌であったことは確かだ。

王侯貴族たちの騎馬闘牛から庶民の徒歩闘牛へ

見世物としての歴史を紐解くと、はじめに闘牛を公の競技としたのは中世イベリアの貴族たちだった。馬上から牡牛を槍で突く騎馬闘牛が盛んに行われ、17世紀にその人気が頂点に達する。庶民は町の一番大きな広場に押しかけ、地主たちの活躍を観戦することができた。ここでの闘牛は富と権力の誇示という側面もあり、主役の貴族たちは大勢の召使いたちを引き連れて入場していたという。ハプスブルク王朝の歴代国王は闘牛を愛し、特に帝国最盛期のカルロス1世（神聖ローマ帝国カール5世）は自らが闘牛を披露することもあった。現在も通常のコリーダとは様式の異なる騎馬闘牛（corrida de rejones）が催行されるが、これはこの時代の闘牛の名残である。

転換期が訪れたのは18世紀初頭。騎馬闘牛の最中に、馬に乗らない徒歩闘牛士が登場した。フランシスコ・ロメロという大工の男が、貴族が落馬したのを見て帽子で牛の視界を妨げ、彼を助けたのである。ここから、赤布を用いた徒歩闘牛の歴史が始まった。彼らは牛に接近して命知らずの技を見せることで、観衆の注意を惹きつける。やがて騎馬闘牛の人気が下火になるにつれ、祝祭の主導権は貴族から庶民出身の徒歩闘牛士たちの手に渡っていく。

「フランスかぶれ」vs「マホ」

騎馬闘牛衰退の理由のひとつは、18世紀初めにスペインがフランスをルーツとするブルボン王朝の統治下に入ったことだった。この王朝はハプスブルクとは異なり闘牛を嫌厭し、スペイン土着の文化を嫌い、イベリア半島へのフランス文化の浸透を推し進めた。18世紀中期、貴族の子息たちはフランス、あるいは他の啓蒙思想国家のサロンで過ごすようになり、宮廷ではなんでもシャレたフランス流が良いと考えるafrancesado（フランスかぶれ）たちが台頭した。

これに反発したのが庶民たちである。古くからマドリードの下町に住む人々は「majo」「maja」（マホ、マハ / 粋な者たち）と呼ばれるが、彼らの下町流儀こそが真のスペイン精神を象徴するものだとする「majismo マヒスモ」が庶民たちの間で爆発した。そして貴族から庶民の手へと渡った闘牛は、まさにこのマホたちの文化を象徴するものとして強く後押しされたのである。庶民の牽引者としてのマタドール像が形成され、彼らが着る「光の衣装」の原型が生まれたが、この衣装もフランス流への反発として開発された。現在、18世紀当時の衣装を着て闘牛するのを「corrida goyesca ゴヤ時代風装束闘牛」というが、これはゴヤの絵画に描かれているような派手なマホ風装束の闘牛であり、この時代に闘牛が庶民の文化として根付いたことを物語っている。

上）アルタミラ洞窟のバイソンの壁画
下）アビラにある石像トロス・デ・ギサンド。紀元前3〜4世紀のものとされる

ゴヤが描いた徒歩闘牛の立役者ペドロ・ロメロ（フランシスコ・ロメロの孫）

闘牛愛好家ゴヤは33枚の一連の版画《闘牛術》を制作している。闘牛のルーツがイスラム起源であるという説を支持していたゴヤは、モーロ人や英雄エル・シッドが闘牛をする版画も描いている

マネ《死せる闘牛士》（1863-1864）

アルルのcorrida goyescaの時に立てられた《裸のマハ》のパネル。ゴヤは多くのマホ、マハの風俗画を描いている

© Jacques Rouquette

19 世紀以降の熱狂、そして現在へ

庶民文化となった徒歩闘牛はスペイン全土に広まり、各地の闘牛場が整備され現在の見世物としての様式が確立していく。庶民たちの熱狂ぶりは凄まじく、闘牛場になだれ込み、チケットがなくても壁をよじ登ってなんとか観戦しようとし、時には砂場に飛び込んで即興闘牛を演じることさえあった。ブラスコ・イバニェスの小説『血と砂』（1908）には熱狂的にマタドールを追いかけ回す市民の姿が良く描かれている。コリーダはマドリードのほかアンダルシアを中心に催行され、闘牛士たちもこの地域出身の者が多い。貧しい出自であることの多かった彼らは富と名声を求めて、その時代に国民的英雄として持て囃された闘牛士になろうとしたのである。20 世紀前半にはホセリート、ベルモンテ、ドミンギン、マノレーテら今も名を残す天才闘牛士らが活躍し、審美性を意識した華麗な布技が幾多も発明された。文豪ヘミングウェイや巨匠ピカソ、ダリなどが彼らの闘牛をテーマとする作品群を残している。そして現在のコリーダ界でも、ホセ・トマスやエル・フリ、セバスティアン・カスティーリャらが業績を残し、活躍しているが、闘牛興行全体には陰りも見え始めている。現実の舞台で顕現する死は、実際のところ、非常にショッキングな体験なのだ。スペイン人でも闘牛に拒絶反応を示す者が珍しくなく、カタルーニャ州では 2012 年に闘牛が廃止された。1 世紀前は、危険を顧みず死に迫る闘牛士は国の英雄だったが、今、そうした時代は終焉を迎えつつあるのかもしれない。しかしながら、こうしてスペインの長い歴史のなかで培われた闘牛士像は、コリーダそのものが廃止されても消えることはないだろう。この分野にはまだ多くの考察の余地が残されている。

ホセリート（左）とベルモンテ（右）

Ⓒ Jacques Rouquette

ニーム（フランス）の円形闘技場。古代ローマ時代に建てられた（左、撮影：荻内勝之）

LAS REGLAS
DE LAS CORRIDAS MODERNAS

コリーダ基礎知識

闘牛といえばスペインのイメージが強いが、フランス、ポルトガル、そして日本にも「闘牛」と言われる固有の雄牛遊戯がある。だからスペインの闘牛に限定する時は「コリーダ」と呼ぶこともある。「コリーダ Corrida」は動詞「correr（走る）」の過去分詞で、砂場で牛が走り回ることに由来する。

コリーダはピカドール（槍士）の幕、バンデリジェロ（銛突闘牛士）の幕、マタドール（正闘牛士）の幕の順で展開する。通常、1つの興行で3組のクアドリーリャ（マタドールをリーダーとする闘牛士グループ）が出場し、それぞれ2回ずつ計6回の闘牛が行われる。

1. 入場行進（Paseíllo）
マタドールを先頭に、3組のクアドリーリャが入場する。砂場を1周し、向かい席のプレシデンテ（祭の主宰）に挨拶。1組目の準備が整うと、トリル（牛の出入口）の鍵が開けられる。

2. 牛の出場（Salida de toros）
出番まで、牛は光のない暗い小部屋に閉じ込められている。部屋の扉が開かれると、差し込んだ光の方向へ一気に走り出し、砂場に踊り出す。すかさず、ペオンと呼ばれる助手闘牛士たちがピンクと黄のカポーテ（布）で牛を誘い、ベロニカという布技で身を交わしながらその牛の性質を見極める。

3. 第1幕（Tercio de varas）Picadorの幕
目隠しをつけた馬に乗り長槍を持った2騎のピカドールが出場。勇敢な牛は、馬の腹めがけて突進する。ピカドールは牛が接近したのを見計らって槍でその背中を刺し、パワーとスピードを落とす。

4.第2幕（Tercio de banderillas）Banderilleroの幕
飾りのついた1対のバンデリージャ（短銛）を、2名の闘牛士が交代で3回、勢いよく跳躍しながら牛の背に打ち込む。後に控えるマタドールがこの役をやることもある。

5.第3幕（Faena de muleta）Matadorの幕
真打の登場。マタドールは牛に極限まで接近し、両足をぴったり地につけたまま、角突きから身を交わしつつムレータ（赤布）のパセ（布技）を繰り返す。闘牛の最大の見せ場であり、マタドールが個性と実力を発揮する場でもある。ムレータの場面が終わると、最後の場「真実の瞬間 La hora de la verdad」へ。右手に剣を構え、一気に牛の懐に飛び込み後頭部の急所を突く。一撃で殺めた場合、観衆から盛大な拍手が送られるが、なんども失敗すると激しく非難される。第3幕は最長15分。

6. 終幕（Finalización）
6回の闘牛で終幕。見事な演技を見せたマタドールには、プレシデンテの判断で褒賞（仕留めた牛の耳や尾）が贈られる。死んだ牛はその後すぐに解体され食肉となる。

開催期
コリーダは春～秋にかけて催行される。それぞれの街のフェリア（祝祭）に伴い開催されることが多い。時間は夕方、日曜日に行われることが多いが、5 月のマドリードのサン・イシドロ祭、7 月のパンプローナのサン・フェルミン祭では期間中に毎日開催される。

コリーダ基礎知識

アルル(フランス)の入場行進。列先頭左のマタドールがベテラン、中央が新人、右が中堅

LOS NIVELES DE TOREROS

闘牛士を志す者は、闘牛学校で修行を積む。さらにアマチュアでの実践を重ねて、プロになるための闘牛士免許を取得しなくてはならない。階級は見習いからスタートし、順に昇級（alternativa）していく。マタドールは最高階級だ。

Novillero sin picador
見習い闘牛士

Novillero con picador
若牛闘牛士

Matador de toros
正闘牛士

愛好家は、牛がどこ産かもチェックする。このプラカードの勝負は「ラ・キンタ牧場産、体重520kg、2005年10月生まれ」の牛が出場し、闘牛士エル・フリが闘う

セビーリャの闘牛場に貼られた催行ポスター。この日に行われたのはNovilladaという若牛闘牛。一番下に闘牛士3名の名が書かれている

撮影：宮田渚

LOS TOREROS JAPONESES

闘牛士となる者はスペイン人のみに限らない。闘牛学校にはアジア人を含めた外国人も入学する。数少ないが、プロとなった日本人闘牛士たちもいる。現地でもっとも良く知られるのは約 20 年前に活躍した下山敦弘氏だろう。彼の闘牛士の字名は「El Niño del Sol Naciente（日出づる国の子）」。ノビジェロとして活躍していたが、1995 年、闘牛中の事故で負傷し、現在は引退している。セビーリャ在住の日本人には良く知られた存在だ。
また濃野平氏は、20 歳の時にテレビで闘牛を観たのをきっかけに渡西、1999 年にプロ闘牛士となった。自伝『情熱の階段 日本人闘牛士、たった一人の挑戦』では闘牛士を志すきっかけから闘牛学校での日々、出会った仲間のことなど、闘牛士たちが身を置く世界の夢と現実が語られている。

『情熱の階段 日本人闘牛士、たった一人の挑戦』

■ 濃野平 著
■ 講談社
■ 2012年3月
※現在は電子書籍版が販売中

突きの練習をするピカドール

闘牛士の独特の帽子をモンテラという。マタドールは第3幕の前にこの帽子を砂場で放り投げることがある。この時、帽子が逆さまに落ちると不吉であるとされる

ピカドールの手の中の槍先

ピカドールが乗る馬

このページの写真は撮影者の表記の無いものはすべて© Jacques Rouquette

¿DE DÓNDE VIENEN LAS CORRIDAS?

闘牛はどこから来たか？

LOS ARTISTAS QUE DESCRIBEN LAS CORRIDAS

闘牛を描いた芸術家たち

死に切迫する闘牛は、
観る者に強烈な印象を与える。
コリーダに魅せられた者、
あるいは恐怖した者は、
何を語り、描いたか。

TEXTO = Nagisa Miyata

パブロ・ピカソ

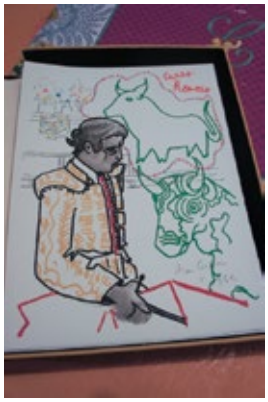
Pablo Picasso

スペイン人の闘牛愛好家といえば、ピカソの名がいの一番に挙げられるだろう。美術界「20世紀最大の巨人」は、足繁く闘牛場に通い、闘牛士たちに牛を捧げてもらい、お返しに自分のスケッチを彼らに与え、モンテロ（闘牛士帽）を被ってはしゃぎ、「画家でなかったらピカドールになりたかった」と宣い、あるいは雄牛の仮面を被り、アトリエに友人たちを集めてギリシャ神話のミノタウロス伝説を模した酒宴を開くなど、この世界に誰よりも深く嵌り込んだ。彼が9歳のときに最初に描いた油絵も《ピカドール》（1890）だった。その後も、油絵、版画、墨絵、陶器画、彫刻など、時代ごとにさまざまな様式や技法で闘牛をモチーフとした作品を制作している。中でも特に魅力的なのは1930年代の《ミノタウロマキア》の時代だろう。ギリシャ神話とスペイン闘牛を融合させ、黒い雄牛はクレタ島の怪物となって馬や闘牛士に襲いかかる。牛の顔はピカソ自身である（“El toro soy yo”）。殺される女闘牛士の顔はピカソの妻の顔である。この作品では残酷さとエロティシズム、さらには生贄の像から連想されるキリスト教の磔刑も主題としていると言われている。また別の時期には、制限時間内に一瞬の運に任せて演技をする闘牛士に倣い、制限時間内に筆のやり直しが効かない墨絵や陶器の皿に闘牛を描く試みをした。いわば画布の上の闘牛士になりきろうとしたのである。実際の闘牛士たちとも親しく交流し、特に仲の深かったミゲル・ドミンギンはピカソを「彼は根底から闘牛士だ Picasso es un torero, en el fondo...」と讃えている。

スペイン内戦の惨禍に憤り生み出された大作《ゲルニカ》（1937）、ここにも闘牛のモチーフ（牛、馬、倒れた人間が持つ折れた剣、太陽のメタファーとも解釈できる真上の電球）が複数描かれている。女たちも馬も肉体が大きく捻れ、まるで闘牛場全体が苦痛に歪んでいるようだ。闘牛の主役であるはずの牡牛は左端でぽつねんと佇み、目の前の光景を静観しているのだろうか。牛はフランコや暴力の象徴であるという解釈もあるが、スペインという舞台から離れたところで喪心するピカソ自身にも見える。この作品はパリのアトリエで制作された。ピカソはフランス生活が長かったが、南仏で「第二のスペイン」を発見できたこともあってか、祖国の民衆文化への深い愛を忘れたことはない。ピカソにとって幼い頃から親しんだ闘牛は、スペインそのものだったのである。

チェコスロバキアの切手。各国が《ゲルニカ》を用いた切手を発行している。ゲルニカは縦3.46m横7.77mの巨大画でマドリードのソフィア王妃芸術センターで展示されている（参考資料）

Jean Cocteau ジャン・コクトー



コクトーの友人、ジャン＝マリー・マニャン氏にアルルの自宅で見せてもらったデッサン。左の絵には2体の牛（愛の対象としての観念的な牛と、目の前の怪物のような牛）が描かれている。Jean-Marie Magnan所蔵（撮影：宮田渚）

フランスの詩人ジャン・コクトーも闘牛に魅入られた人物のひとりで、ピカソと一緒になんども観に行った。コクトーにとって、牛とマタドールの対は男女の関係と並行にあった。詩的作品『5月1日の闘牛』（1957）のほか、闘牛デッサンも多数残している。

フェデリコ・ガルシア・ロルカ

Federico García Lorca

グラナダの詩人ロルカは「イグナシオ・サンチェス・メヒアスへの哀悼歌」という有名な詩を書いている。裏拍のように、たたみかけるように反芻される「午後の五時 a las cinco de la tarde」。これは闘牛の始まる時刻を表している。死の時間である。

詩人には闘牛士の親友がいた。名はイグナシオ・サンチェス・メヒアス。セビーリャ出身で、優れた闘牛士だった。メヒアスは芸達者な人物で、文学に精通し、詩や戯曲を書き、さらに役者としても活動していた。1927年を機に闘牛士を引退して作家活動に専念していたが、1934年8月11日、43歳にして急遽、闘牛の舞台に戻ることになる。別の闘牛士が交通事故で出場できなくなったため、代わりに砂上に立つことになったのだ。この日の1番目の牛の角が、彼の右腿を貫いた。大怪我を負ったメヒアスはその2日後に息を引き取った。

この詩は、死んだばかりのメヒアスの肉体から流れる血、突然もたらされた彼の死を、悲痛に「僕は見たくない!」という拒絶を交えながら、けれども繰り返し歌い上げる。この世で最も恐ろしいその一瞬を永遠にするかのように。

詩人にとって闘牛は、なによりも死を啓示する舞台ではなかったか。この詩を書いた2年後の1936年8月19日、ロルカは銃殺された。翌年パリで開かれた万国博覧会のスペイン館では、内戦の犠牲者の象徴としてロルカの肖像とともにこの作品も展示された。

イグナシオ・サンチェス・メヒアスへの哀悼歌

A las cinco de la tarde.
Eran las cinco en punto de la tarde.
Un niño trajo la blanca sábana
a las cinco de la tarde.
Una espuerta de cal ya preparada
a las cinco de la tarde.
Lo demás era muerte y sólo muerte
a las cinco de la tarde.

午後の五時。
午後のきっかり五時だった。
一人の子供が白いシーツを持ってきた
午後の五時。
石炭が一籠　もう用意され
午後の五時。
あとは死を　死を待つだけになっていた
午後の五時。

小海永二訳(『ロルカ詩集』世界現代史文庫より)

アーネスト・ヘミングウェイ

Ernest Hemingway

20 世紀闘牛文学者の代表といえば、忘れてはいけないのがアメリカの作家ヘミングウェイである。出世作『日はまた昇る』(1926)では、彼が深く愛したパンプローナの牛追い祭と闘牛が描かれており、フィエスタの高揚感がありありと綴られている。

> *闘牛士にでもならない限り、その生のすべてを生き抜く人間はいない。*
> *『日はまた昇る』第2章より*

パンプローナの土産物屋。ヘミングウェイの似顔絵が描かれている
(撮影:Alejandro Contreras)

Jarou Jacques Rouquette ジャルー(ジャック・ルケット)

闘牛の美は一瞬にして連続。絵画のような写真作品。

ジャルーは、雑誌でよく見かけるような紋切り型とは別の形で闘牛を表現しようとする。闘牛士と牛のカップルが織り成すかりそめのパセの形を捉え、その一瞬に閉じ込められた至高の美を追求する。彼は非常に遅いシャッタースピードによる「映像のぶれ」を使う。写真の中に時間の経過を与えるためだ。それはあたかも、死の瞬間を少しでも延期させたい、運動と色彩によって構成された闘いの美を引き留めておきたいと願っているかのようである。フランスの闘牛研究の第一人者、哲学者フランシス・ウォルフは彼の作品を「絵画」のようだと言った。ジャルーは闘牛の血の混じる光景を表現することはしない。牛の力強さと闘争心は、すらりとした優雅な闘牛士の女性性と対照的な形で示される。彼の写真集『Ante Mortem』(ラテン語で「死を前に」)では、闘牛の攻撃的な部分がすべて取り除かれ、闘牛術のダンス、演劇性という側面が鮮やかに描き出されている。

p.13 , p.14 の写真は撮影者の表記の無いものはすべて© Jacques Rouquette

LIBROS
闘牛の本

闘牛はなぜ殺されるか

■ 佐伯泰英 著
■ 新潮社
■ 1998年9月刊

時代小説『居眠り磐音 江戸双紙』シリーズ等で知られる小説家、佐伯泰英による闘牛ルポルタージュ。カメラマンとして闘牛士一行に密着、同行した著者ならではの精確な描写で、20年前に書かれた本ではあるものの、一読すれば、技、歴史、芸術観などスペイン闘牛の概要を掴むことができる。

さもなくば喪服を

■ ラリー・コリンズ ドミニク・ピエール 著
■ 志摩隆 訳
■ 2005年6月刊
■ 早川書房

貧困から這い上がり花形闘牛士へと転身したエル・コルドベスの半生を綴ったノンフィクション。少年は富と名声を得るため、死と隣り合わせの舞台のスターになることを決意する。闘牛士という英雄をなぜ時代は渇望したか。1960年代スペインの政情を知るのにも役立つ1冊。

PELÍCULAS
闘牛の映画

マノレテ 情熱のマタドール

■ 監督 メノ・メイエス
■ 主演 エイドリアン・ブロディ
■ 価格(DVD) 1,429円+税 発売中
■ 発売元 ツイン
■ 販売元 NBCユニバーサル・エンターテイメント

スペイン最高の闘牛士と謳われたマノレーテの生涯を描いた1作。恋人ルペ役をペネロペ・クルスが演じる。マノレーテは絶大な人気を誇った闘牛士で、1947年に闘牛中の事故で亡くなり、国葬が執り行われた。

ブランカニエベス

■ 監督 パブロ・ベルヘル
■ 主演 マリベル・ベルドゥ
■ 価格(DVD) 3,800円+税 発売中
■ 発売・販売元 松竹株式会社

お伽話「白雪姫」と闘牛を融合させたサイレント映画。天才闘牛士の娘カルメンシータは、冷酷な継母に殺されそうになったところを7人の小人闘牛士たちに助けられる。やがて彼女は、亡き父と同じ正闘牛士になることを決心する。

©2011 Arcadia Motion Pictures SL,Nix Films AIE,Sisifo Films AIE, The Kraken Films AIE,Noodles Production,Arte France Cinéma

PLAZAS DE TOROS
スペイン国内の主な闘牛場

ラス・ベンタス闘牛場
Plaza de Toros de Las Ventas

首都マドリードにあるスペイン最大の闘牛場。毎週日曜と祝祭日に闘牛が行われている。闘牛博物館を併設し、ガイド付き見学が可能。

Calle de Alcalá, 237, 28028 Madrid
+34 913 56 22 00
www.las-ventas.com

ロンダ闘牛場
Plaza de Toros de Ronda

1784年に開場されたスペイン最古の闘牛場。闘牛の歴史が分かる資料館が併設され見学ができる。また、王立馬術校としての歴史も知ることができる。

Calle Virgen de la Paz, 15, 29400 Ronda, Málaga
+34 952 87 41 32
www.rmcr.org

マエストランサ闘牛場
Plaza de Toros de Maestranza

セビーリャらしい白と黄の色鮮やかな闘牛場。闘牛の聖地とも呼ばれる。シーズンの夏は厳しい暑さのため、セビーリャで闘牛を見るときはぜひ日陰(ソンブラ)席を。

Paseo de Cristóbal Colón, 12, 41001 Sevilla
+34 954 22 45 77
www.plazadetorosdelamaestranza.com

« Jarou » Jacques Rouquette / ジャルー(ジャック・ルケット)
フランス、ニーム在住。10歳から撮影をはじめる。写真家として活躍するほか、フランス国内外のさまざまな写真展の企画に携わる。2003年にドルードゥ=ブルターニュ国際写真月間を立ち上げ、2013年まで指揮。同年、国際的な写真家のグループ「inter Nos」を創設。撮影テーマは多岐に渡り、現在は在仏ユダヤ人共同体など、社会的ルポ・ジャーナリズムを中心に活動している。アルルの著名な闘牛写真家ルシアン・クレルグとも親交があり、自身も南仏を中心に闘牛の撮影を続け、作品集『Ante Mortem』を発表している。
www.jarouphoto.com

宮田渚 / Nagisa Miyata
京都大学大学院 人間・環境学研究科に在籍時、フランス現代思想とスペイン闘牛の関わりについて研究する。2014年に南仏モンペリエに留学、パリ、アルル、ニームなどを周りながら、闘牛研究者らを訪ねる。今号で写真作品を提供してくれたジャルーも、そうした間に知り合ったひとり。大学院修士課程を修了後は『acueducto』編集を通して、スペイン語圏の文化・歴史を日々勉強中。

左から、Jacques Rouquette 宮田渚, Francis Wolff(闘牛哲学者)/ 2015年ニームのフェリアで撮影

ルシア・フレイタス　来日ルポ

スペインのリアスから日本のリアスへ、愛を込めて

Solidaridad con cariño,
desde las Rías de Galicia, para las Rías de Iwate

TEXTO = Mari Watanabe

GALICIA なぜ、ガリシアから？

ルシア・フレイタス。スペイン・ガリシア地方出身、35歳。サンティアゴ・デ・コンポステーラのレストラン「ア・タフォーナ・デ・ルシア・フレイタス」のオーナーシェフ。彼女が、函館の「世界料理学会」に参加するために来日した。

3年前に彼女と知り合ってからずっと、ルシアを日本に連れてきたいと望んでいた私の夢が叶った10日間。これはルシアの日本滞在日記の一部、そしてこの若い女性シェフが日本に残していってくれた足跡のささやかな記録である。

私が初めて会ったとき、ルシアはすでに自分のレストランを始めて数年。オーナーシェフとして若いながらも立派な仕事をしていた。彼女に「日本に来ない？」と尋ねた私の思いは、やる気にあふれた若々しい女性シェフに日本を見せてあげたい。日本料理や器にも並々ならぬ興味をもつ彼女に、日本の食の魅力を実感させてあげたいということだけだった。

しかし、できれば何か特別な経験もさせてあげたい。それには、「世界料理学会」で発表の機会を作ったらどうだろう？ルシアにとって、ひとつの新しいステップになるに違いない……。

それにしても、注目を浴びつつあるとはいえ、それほど知名度の高くない若い女性シェフ。どうして彼女を呼びたいのか？　それには、ルシアは「リアス」の「コシネーラ」だから、というふたつの大切な理由があった。

ルシアの生まれ故郷ガリシア地方はビスケー湾と大西洋に面しているが、ここには大きな河の河口がそれぞれ深い谷を形成して、結果的にギザギザに続く入江の連続する独特の海岸線がある。この海岸線をスペイン語で「リアス」と呼び、そこからこういう形態の海岸線を世界的に「リアス式海岸」と呼ぶようになった。つまり、三陸の「リアス式海岸」のルーツは、スペインのガリシアなのだ。

だからこそ、震災の深い痛手から懸命に復興を目指している三陸で食に関わる人たちにエールを送るのに、ルシアほどふさわしい料理人はいないと私は確信していた。

そしてもうひとつの理由、スペインの「コシネーラ（女性料理人）」を函館の学会に呼びたいというのは、私の以前からの願いだった。スペインでは昔から女性が厨房で大きな役割を占めてきた。郷土料理がそのままレストランの料理だった時代には、「cocer 煮炊きする」料理が女性の料理人、「asar 焼く」料理が男性の料理人という暗黙の分業が存在していた。最近の新しい美食の世界が確立していくなかで、その中心はどうしても男性に奪われながらも、スペインのコシネーラたちは健気に奮闘してきた。ルシアもそのひとりだ。

函館の学会は、地元の料理人深谷氏が始めた大きな価値をもつ素晴らしいイベントだが、惜しいことに女性が登壇する機会は少ない。ぜひ女性シェフの観点からの発表をさせてほしい。そんな私の思いを汲んだ深谷氏が快諾してくれて、ルシアの学会発表が決まった。

日本に到着したルシアと助手のイマヌエルは、いくつものイベントの慌ただしい打ち合わせや準備を平然とこなし、休むまもなく函館へと飛び立った。

しかし、私は内心心配だった。ルシアの料理は素晴らしいが、人前で喋ることが得意かどうかは、あまり考えていなかった。初めての学会発表で、50分間も語ることができるのだろうか？ いささか不安そうな私に、ルシアはこう答えた。「喋るのは好きだから大丈夫。むしろ、話したいことがたくさんあるから、長くなるかも」

そして実際に学会初日のステージに上がったルシアは、学会参加が初めてとは思えない自然な態度と語り口で、会場を埋めた聴衆を魅了した。

ガリシアの風土がもつ独自性。食材の豊富さ。ガリシアの料理人であることの誇りを熱く語るルシアの発表は、日本の各地から集まった聴衆の心にも響いたに違いない。中央志向ではなく郷土をなによりも大切にするスペインの人々の発想を、今は日本が後を追う形で、地方の美食を発展させていこうとしているのだから。

今回の学会のタイトルだった「山菜」というテーマに呼応してルシアは、ガリシアの海辺で育つ様々な天然の植物を「海辺の野菜」と呼んで活用していることも発表してくれた。発表が終わった後の懇親会で、大勢の料理人たちが、彼女からさらに話を聞きたいと集まってきた。自分の畑で作った野菜をレストランで使っているという彼女に意気投合して、野菜の種をプレゼントしてくれるシェフもいた。スペインの北のはずれで独自の料理の世界を築きつつあるルシアからのメッセージは、日本の料理人たちにしっかりと届いたのだ。

函館へ
HAKODATE

上）講習会開催のために集まってくれた岩手の料理人たち
中）ガリシアの海岸地帯に生える「海の野菜」のいろいろ
下）「牡蠣のジントニック風味」

MORIOKA
素晴らしい出会い

函館での発表の翌日、ルシア一行は新幹線で盛岡へと向かった。そこではすでに、岩手チームがルシアを待っている。せっかく日本まで来てくれるルシアに、どんなにわずかな時間でもいいから三陸の人たちと直接接する機会をもってほしい。そう願っていた私に、岩手復興に携わる料理人たちのチームが応えてくれて、盛岡での講習会が実現したのだ。このあと東京で開催されるふたつのイベントの収益が、岩手での講習会の費用にあてられることになり、私は親しい漁師の中村さんに、講習会のためにとびきりの牡蠣を送ってくれるよう頼むことができた。

会場を引き受けてくれたレストラン「ダコッタ」のオーナーシェフ鹿澤さんの尽力で、地元の料理人たちが大勢助っ人として集まり、講習会の始まる前から会場は熱気に包まれた。そしてルシアがなにより喜んだのは、三陸の料理人たちがみな、ルシアがもってきたガリシアの「海の野菜」に強い興味を示してくれたことだった。これは似たのがこっちにもある。この香りは珍しいが気に入った。これは日本のわらび、試してほしい……言葉の壁を超えて、自然と資源を大切にする料理人たちのやりとりは熱っぽく続いた。

満員の講習会には岩手県の様々な地域から飲食に関わる方たちが参加して、ガリシアについて、地方の食について語るルシアに耳を傾け、彼女のオリジナルレシピで作られた「牡蠣のジントニック味」を試食した。

牡蠣は、三陸がこれからアピールしていきたい食材のひとつだ。それを今までとは違う発想の料理で出せたら、復興のお手伝いになるのではないか。そのためには、特殊な材料や道具がなくても、地方の食堂でも活かせるアイデアを提供できればと思って選んだシンプルな牡蠣の一皿は、期待通り地元の人たちに気に入ってもらえたようだ。そしてなにより、岩手の人たちと育むことができた暖かい交流に、ルシアはどこよりも親しみと共感を覚えて東京に戻ってきた。

翌日は、早速東京での「女性のためのワークショップ」がルシアを待っていた。第一線で活躍するルシアから、日本で料理に携わる女性たちに語りかけてほしいという思いに共鳴して、池袋「シュヴァル・ド・ヒョータン」の女性シェフ、川副さんが会場を提供してくださったのだ。

このワークショップに、ルシアは大きな関心を寄せてくれた。なにしろ、仕事のときはきりっと厳しいルシアの顔が一瞬で優しく変貌するのは、スカイプでマウロと話しているときだけ。

「元気かな？　もうすぐ帰るから、いい子にしててね！　お土産は何がいい？　自動車？」

ルシアは2歳のマウロのお母さんなのだ。母であること。料理人であること。レストランの経営者であること。タフで頭も良く、一見すべてを楽々とこなしているように見えるルシアだが、ワークショップに集まった30人ほどの女性に、ルシアは切々と訴えた。

「コシネーラとして頑張っている私を、周囲の男性シェフたちはなかなか認めてくれなかった。女なら、せいぜいパステレラ（女性パティシエ）だろう、それだけやっていればいい、みたいな認識。それが悔しくて、若手料理人のトップを競うコンクールに出たの。予選に勝ち残って、決勝を待っているときに妊娠しているってわかった。決勝はマウロが生まれて2週間目だったけど、全力を尽くして2位になったわ。それから、やっと周囲の男性たちが一目置いてくれるようになった……。あなたたちも、負けないでがんばってね！」

料理人やパティシエを目指している女性たちは、ルシアの言葉にひとつひとつ頷きながら聞き入っていた。

女性たちにエールを

TOKYO--IKEBUKURO

各地から参加したプロの料理人たちに補佐してもらいながら、デザートのデモンストレーションをするルシア

TOKYO--KIOICHO

なによりもまず、料理人であること

弾丸ツアーの最後は、東京での1回だけのディナーだ。前もって食材を試食することなくスペインでメニューを決めなければならなかったルシアは、日本に着いてから、会場となるレストラン「フエゴ・デル・トロ」の大瀧シェフと打ち合わせを重ね、周囲の心配をよそにどんどん食材を変更し、料理そのものまで変更して自分の納得できるメニューに変えていった。そのプロセスは、イベント主催者としてはいささか不安なものではあったけれど、ディナーの当日、ルシアは見事にシェフとしての真価を発揮して、私の心配が不要なものであったことを証明してくれた。朝から夜まで休むことなく動いて、自分の料理を完成させていく。そこには、プロとしての意地と料理人としての強い誇りに支えられたルシアのエネルギーが溢れていて、私はただ脱帽するしかなかったのだ。

この日のディナーも、岩手の被災地への支援を軸として企画されていて、食材の多くは岩手から届いた。岩手の水の流れから直行してくれた鱒。岩手にこんなおいしいチーズがあったのかと感動させられた3種類のチーズ。他所にはないこだわりで育てた岩手短角牛の豊かで無駄のない味わい。そこには、岩手の人たちが我々のイベントに寄せてくれた期待と善意がつまっていて、それを見事な皿へと昇華させてくれたルシアと大瀧シェフには、惜しみない拍手が送られた。

ルシアは私に、パンの皿を差し出して「どう？」といたずらっぽく笑いかけた。ぎりぎりのタイムスケジュールのなかでルシアが作った、ガリシアのパンだ。

洗練されたモダンな料理に、彼女がどうしても添えたいと言い張ったトウモロコシ粉の素朴なパン。そこには、ルシアのガリシアへの深い郷土愛がこもっていた。一見華やかで現代的な彼女の料理の根本にガリシアへの熱い思いがあり、それが彼女のパワーの原点でもあることを、そのパンは雄弁に語っていた。

ルシアがスペインへ帰ってから、私は彼女の「お母さんのいちご」の話を思い出していた。

ルシアが現在の代表作としているデザート「ラ・ヴィ・アン・ローズ(バラ色の人生)」が、マウロの1歳の誕生日を記念して作ったデザートだということは聞いていたが、今回さらに詳しい話をしてくれたのだ。

「子供のころ、いちごの季節になると、いつもお母さんがいちごに砂糖とレモン汁をかけて冷蔵庫に入れておいてくれた。私はそのいちごの器にたまっていく汁が好きで、こっそり冷蔵庫から器を出しては汁を飲んでいた……」

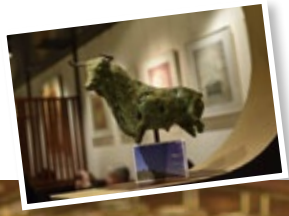
子供のころ大好きだった甘酸っぱいいちご汁の記憶が、バルサミコを加えたいちごのシャーベットに昇華する。息子が生まれて育ってくれていることの幸せを、赤い色のデザートの一皿として表現する。

ルシアは、人間としての感動をそのまま料理として結実させることができる、恵まれた感性をもつ料理人のひとりなのだ。仕事を終えた日本滞在最後の日、最後までレストランで使う食器や調理器具を買って歩いているルシアを見ながら、彼女の行く先にはきっと公私ともに充実した未来が開けていくに違いないと、私は確信することができた。

彼女が日本を訪れてから、岩手の復興支援には順風が吹いている。いくつもの素晴らしいイベントが開催され、そのなかで鹿澤シェフは、ルシアの「牡蠣のジントニック」をアレンジして出してくれた。いつかまた、ルシアを三陸の地に呼びたい。そんな思いは、ルシアにもしっかりと届いている。スペインのリアスから吹いた一陣のさわやかな風のようなルシアの来日は、しっかりと実りを残していってくれたのだ。ありがとう、ルシア！

お母さんのいちご

GALICIA--Recuerdos de la niñez



❶大瀧シェフ、ルシア、イマヌエル
❷「岩手短角牛のロースト」
❸有田焼の若手作家の皿に載せた「トマトとマグロ」
❹トウモロコシ粉にたまねぎなどを加えた、ガリシア風パン
❺三陸・山田湾の「ホタテのセビーチェ」
❻三陸の海辺から運ばれてきた流木の飾られたテーブル

渡辺 万里

大学で「スペイン内戦」というテーマと出会い、それがきっかけでスペイン食文化の研究をライフワークと決める。日本とスペインを行き来しながら料理とその歴史を学ぶと同時に、1992年からマドリードのグルメ雑誌「Gourmets」への執筆などを通してスペイン料理界の最前線に接するようになり、「エル・ブジ」と出会う。現在は東京・目白の「スペイン料理文化アカデミー」を拠点として、スペインの食文化のより正確な紹介を目的として活動している。

<スペイン料理文化アカデミー>
スペイン料理クラス/スペインワインを楽しむ会
フラメンコ・ギタークラスなど開催
〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2
Tel:03-3953-8414
www.academia-spain.com

写真協力:福吉貴英、松田美穂、星野浩美

ルシアのレストラン
Restaurante A Tafona
Virxe da Cerca, nº 7, baixo. 15703
Santiago de Compostela - A Coruña
TEL : + 34 981 562 314
www.nove.biz/lucia-freitas/es

ガリシアの工芸作家の皿に載せた「ラ・ヴィ・アン・ローズ」

colegiodelibes
Y TÚ... HABLAS ESPAÑOL?

Plaza Julián Sánchez "El Charro" 1
37005 Salamanca, España
Tel: +34 923 120 460 Fax: +34 923 120 489
www.colegiodelibes.com
delibes@colegiodelibes.com

Centro Acreditado

Salamanca ¡Te está esperando!

様々な国籍の学生で溢れ、
いつも活気のあるColegio Delibes。
充実したコース・アクティビティが自慢です。
あなたも一緒に勉強しませんか?

Salamanca へ行こう!

「学生の街」として有名なサラマンカ。
この街では、訛りのないスペイン語が話されているため、スペイン語を学ぶのにぴったりの環境です。小さな街で治安も良く、親しみやすい雰囲気のため、世界中からたくさんの学生が訪れます。是非、サラマンカへお越しください!きっとご自分の家にいるような心地よさを感じていただけると思います。

Cursos
ニーズに合わせて
多様なコースをご用意

Clases
25教室 / 全10レベル
1クラス最大12名

Estudiantes
学生からシニア層まで
40ヶ国の国々から

Actividades
文化やスポーツなど、
様々なアクティビティを提供

Alojamiento
ホームステイ、学生寮、共同アパート
プライベートアパート、ホテル

コース料金、
宿泊施設など
詳細につきましては
お問い合わせください

VISITA A DOS BODEGAS EN VALENCIA

バレンシアのワイナリー巡り

TEXTO/FOTOS = Yuji Shinoda

バレンシアにも美味しいワインがあるんだよ、
という友人たちの奨めにしたがって、
バレンシア州にある2つのワイナリーを訪ねた。
今回紹介するのは、
その1つボデガス・アラーエス(Bodegas Arráez)だ。

篠田有史 / Yuji Shinoda
1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。【写真展】富士フォトサロンにて『スペインの小さな町で』、『遠い微笑・ニカラグア』など。【本】「ドン・キホーテの世界をゆく」(論創社)「コロンブスの夢」(新潮社)、「雇用なしで生きる」(岩波書店)などの写真を担当。

1

01 Bodegas Arráez

La Font de la Figuera

ボデガス・アラーエスのワイナリーは、州都バレンシアから南西へ車で1時間のところに位置する小さな町 La Font de la Figuera にある。1950年の創業。2016年に日本のサクラアワードのダイアモンドトロフィーを受賞したワイン (Mala Vida) を作っている。当主は3代目のトニ・アラーエスさん（39）。2007年に父親からワイナリーを受け継ぎ、リオハで修行した醸造家としての技術と才覚で、人気ワイナリーに押し上げた。

トニさんは、初めて品評会にブースを出した際、ワインボトルを奪い合う（?）二大怪獣のバナーを掲げた。「短パンとビーチサンダル」で客をアテンドしたこともあるという。とにかく目立ちたかったのと、ワインの持つ堅苦しいイメージを払拭したいという思いがあった。ラベルのデザインにもトニさんのアイデアが生かされた、奇抜なものが多い。

味わい深いが飲みやすい、若者向きのワイン。スペインでは、だいたい1本6～12ユーロで売られている。昨年は計300万本以上を販売したという。

貯蔵タンクの前で熱く語るトニさん

バレンシアは数千年前からワイン醸造が始まった歴史ある産地。DO（原産地呼称ワイン）に認定され、スペイン国内第4位のワイン生産量を誇る。産地は州の北西部と南部に4地域（バレンティノ、モスカテル、アルト・トゥリア、クラリアノ）あり、モナストレル種とガルナチャ種の軽快な味わいの赤ワイン、メルセゲエラ種とマルバシア種の辛口の白ワインなどが主要品種。特にメルセゲエラの白ワインはこの地域の特産ワインとして知られている。

奇抜なラベルは若者にも好評

1 ワイナリーの外観。ラベルや車のペイントなどと同様にクリエイティビティが感じられる
2 エントランス。ロス・デル・リオが訪れたときの写真が置かれている
3 地下の貯蔵室
4 Barのような試飲カウンター
5 香り当てコーナー（博物館）
6 樽の説明（博物館）
7 博物館の入り口

ワイナリーでは、見学者も受け入れていて、地下にはワインの歴史や製造過程などを分かりやすく説明した、ちょっとした博物館もある。年に３回、見学者が自分でワインを作ることができるイベントも開催している。

近くのカプラチョ山の麓にはブドウ畑がひろがり、その近くに新たな醸造所が建つ予定だ。現在、ロゼやカバ（スパークリングワイン）も含め、11 種類ほどのワインを造っているが、日本では「Mala Vida」などの４種類が販売されている。

試飲用に注がれる赤ワイン
小さなブドウが育ち始めていた

INFORMACIÓN

Bodegas Arráez

C/Arcediano Ros 35,
46630 La Font de la Figuera,
Valencia
☎ :+34 96 229 00 31

www.bodegasarraez.com

vol. 2

MODA ESPAÑOLA

バルセロナのモードを知る

ナチュラル・シックな服に秘めた情熱「Sita Murt」

TEXTO = Rei Inoue
FOTOS = ©Sitamurt

「あなたが憧れるスペインブランドは？」ファッション好きなバルセロナの女性にこう聞くと必ず名前が挙がる Sita Murt(シタムル)。政治家、女優、そしてスペイン王妃にも選ばれる服はコンビネーションしやすいのにどこか他と違います。シンプルに見えて、その服作りの裏には多くの努力と人々の思いがありました。女性たちに愛される Sita Murt の魅力に迫ります。

あえて難しい道へ

バルセロナの旧市街、ボルン地区にはスペイン国内で10店舗目となる最新Shopがあります。昔ながらの街並みに溶け込むように、他の店舗とはまた印象の違う外観です。同じアイデアを使い回すのではなく、服も店作りも手間をかけ、1つ1つ考え抜いているのがここにも見て取れます。大量生産ではない、Slow Fashion(スローファッション)という考え方のもと、Sita Murtの挑戦はこれからも続いていきます。

ニットを基盤とした上品なコレクション

もともとは男女のニットウェアを扱う小さなファミリー企業としてスタート。すでに100年近い歴史があります。大きな改革をしたのは3代目。彼女は社会で女性が活躍するこれからの時代を見据え、トータルルックの女性ブランドを築くことを決意。1980年代には自身の名前、Sita Murtをブランド名に掲げ、デザイナーとして彼女の夢を形にしていきました。やがてSita Murtはアクティブに人生を楽しみたい女性のためのブランドとして多くの支持を集めるようになります。その服はリラックスした雰囲気でありながら大変洗練されており、世界40ヶ国のショップで扱われるまでに成長しました。今やバルセロナファッションを代表する存在です。

色にこだわる、質にこだわる

Sita Murtの服の特徴は繊細な色使い。大地を思わせる色、森をイメージさせる色。色と色が絶妙にミックスした中間色にも定評があります。普段のワードローブに1枚加えるだけでランクアップしたイメージに。そして糸や質にもとことんこだわります。マテリアルはイベリア半島のものを使い、ニットは主にバルセロナ郊外の町、イグアラダで製造。プリント、ジャカードの柄もここにしかないオリジナルです。時に刺繍などは高技術のあるインドまで赴くなど服作りに妥協はありません。何年も何年も長く使えるのは良質だからこそ。Tシャツ1枚とっても10年後も色褪せません。この服を着るために頑張れる、そんな自分を鼓舞してくれる服たちです。

作り手としての責任感 Responsabilidad de mantener el nivel de calidad

飽きがこないデザイン、色、質を維持するために、試作を重ねながら常に最良の服を生み出すSita Murt。現在は4代目へと移りましたが、和気あいあいとしたデザインチームにはベテランも多く、ファンもまた母娘2代で通うほど長い付き合いも増えています。従業員やお客様からの揺るがない信頼は積み重ねた努力の証。「自分たちには作り手としての責任がある」それこそ、彼らを突き動かす原動力なのです。

ブランド情報

sita murt/

バルセロナの3店舗

32 Carrer del Rec (Born)
Tel: +34 93 760 56 91

242 Mallorca
Tel: +34 93 215 22 31

18 Mestre Nicolau
Tel: +34 93 209 91 32

www.sitamurt.com

Sita Murt販売先

南青山Due e Due
東京都港区南青山5-5-20-B1F
Tel:03-5467-2002
w-r-dueedue.co.jp

月1回、南青山Due e Dueで開催するポップアップでご覧いただけます。
日時 2018年8月8日(水)〜8月12日(日)
9月11日(火)〜9月16日(日)

Due e Dueのオンラインサイト「Ebro」
作り手の顔が見えるスペインファッションをご紹介。

ebro-dd.com

井上 礼 / Rei Inoue
セレクトショップ、南青山Due e Due (ドゥエドゥエ) ファッションアドバイザー、及びバイヤー。祖父母の代よりヨーロッパの服地を輸入販売しており、そんな環境の中1994年、東京、表参道のDue e Dueにてファッションの道へ。大学卒業前に初めて訪れたスペインに魅了され、現在はスペインファッションを多く取扱う。バルセロナで直接買付けを行い、ショップでは日本人に合ったコーディネートを提案している。

¿Cómo nos comportamos en España?

留学の心構え

¡Hola! スペイン語の語学留学は、語学スキル以上に、
さまざまな経験が得られる貴重な機会。
けれどもいざ海外で暮らしてみると、
現地の価値観や文化の違いという壁にぶつかります。
そこで留学を考えているスペイン語学習者の皆さんのために、
今回は留学先で「どんな風に行動すればいいか？」
「どうすれば成功するのか？」を
スペイン留学.jpスタッフ一同から伝授いたします！

スペイン語を習得したいなら、わからないまま放っておけばどんどん授業についていけなくなります。先生は、「教室は間違う場所。皆のために私(先生)はいるんだよ！　間違ってくれないと困るよ！」と皆さんを暖かく迎えてくれるので、間違いを恐れず、わからないことはわからないと言う勇気を持って、発言しましょう。

間違ってアタリマエ。コミュニケーションは最大の学び！

[学校での行動編]

コミュニケーションをとる際、笑顔はとても大切ですし万国共通です。第一印象はとても良いと思いますが、愛想笑いだけでごまかすのはやめましょう。先生もクラスメイトもあなたの意見や考えを知りたいのです。誤魔化さず1フレーズを完璧に言えなくても、知っている単語で伝えること、イエス・ノーを言うことが重要です。

とりあえず愛想笑いしておけばいいよな、
スペイン語話せないし……

先生の言葉の中で
わからない単語が
いくつかあったな……
まあでも後で
辞書を引けばいいか。

学校の先生、年上のクラスメイトであっても、基本的に授業ではtú, vosotrosの二人称でOK。失礼にはならないので安心してください！　日本人には抵抗があるかもしれませんがusted, ustedesで話すと逆に自分から距離を置くことになってしまいます。中南米は国によっても異なりますがスペインとは違い、三人称が多く使われます。

わからない時は先生に直接質問しましょう。質問することで尋ね方や答え方、さらには相づちの打ち方まで練習できて自然と身に付きます。クラスメイトが質問に乗っかってくると、同じ意味でも他の単語や言い回しを勉強できる場合も多いです。先生は質問を待っています。言葉で伝えるのが難しい場合は身振りや手振りを交えるのも良いでしょう。

ホームステイの場合、嫌いな食べ物があれば遠慮せずファミリーに伝えましょう。初日に聞いてくれるところもありますが、聞いてくれるのを待っているのではなくて自分から積極的に話しましょう。好きなものも一緒に伝えればそこから会話も広がります。食べ物のアレルギーがある場合も同様、忘れずに伝えてください。現地のファミリーはあなたが快適に生活できることを望んでいます。

魚料理が苦手……
でもせっかく作ってくれたし
申し訳ないから言わないで食べよう。

ネガティブな言葉で謝るのではなく、ポジティブな言葉で感謝の気持ち、お礼の気持ちを伝えましょう。日本語の「すみません」には色々な意味がありますが、外国語は基本的に「こちらが悪いので謝っている」という意味で取られます。謝るのではなく小さなことでもお礼を言う方がお互い気持ち良いですよね。

文化の違いがわかれば語学も上達する!?

[滞在先での行動編]

あっ、すみません、
すみません!

知らない人だし
目が合ったけど
特に何も言わなく
ていいよね。

スペインも中南米も水はとても貴重です。シャワーは15〜20分で済ませるのがいいでしょう。髪を洗っている間は必ず蛇口は止めます。各家庭で使えるお湯の量が決まっているところもあるので、水やお湯を使いすぎると最後の人がシャワーする時お湯が出ない!　ということも……お互い配慮し合って気持ちよく生活しましょう。日本ではシャワーやお風呂は夜が多いですが、ヨーロッパでは朝の人もいます。バスルームを使っても良い時間をファミリーやルームメイトに事前に確認しておけば、同じ時間に集中せずに済みます。

暑い!
シャワーをたっぷり浴びたい!
冬は湯船に浸かりたい!

同じアパートや住んでいる家の敷地内の人と、エレベーターなどですれ違った際には元気よく挨拶をしましょう。知らない人であっても、たとえ外国人であっても現地の人は ¡Hola! と挨拶をします。笑顔も忘れずに!

カフェやレストランなどでは荷物や貴重品を隣のイスやテーブルの上に置いたり背もたれにかけるのはご法度!!　置き引きに注意が必要です。トイレの個室、服や靴の試着をする時も同様、貴重品は肌身離さず持ちましょう。ここは日本じゃない!　と意識することが被害に合う確率をぐんと下げます。

やっと一息!
荷物も置いて
コーヒーブレイク♪

防犯意識も身に付けて留学を楽しむ!

[外出での行動編]

せっかく海外に来たし
免税店で買った ブランド品を
持って行こう!!

ブランド品や高価なものを身につけるのは控えましょう。学生は特に注意!　中南米ではさらに注意が必要。時計代わりにスマホを使うより、腕時計が安全です。誰かがそのスマホを狙っているかも知れません。ながらスマホやガイドブック等を常に眺めながら歩くのも、防犯上控えましょう。

もっと現地生活のことを詳しく知りたい!
他にも気になることがある!
そんな方は、スペイン留学.jpまでお問い合わせください。
カウンセラーが無料でご相談に応じます。
お問い合わせ　☎ 06-6346-5554(大阪本社)
✉ info@spainryugaku.jp

スペイン留学.jp

行きたい場所と学校探し!

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。
国ごとに異なる特色を持った魅力溢れるスペイン語圏。
お気に入りの街が見つかれば、より充実した留学生活に!

España

スペインにある91校の語学学校と提携しています。

❶ サン・セバスティアン
San Sebastián

バスク地方独自の文化が息づく街。「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能でき、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも賑わっています。

LACUNZA

❷ サラマンカ
Salamanca

1218年に創立されたスペイン最古の大学がある学生の街。カテドラル、大学、貝の家、マジョール広場など美しい建物が多く、旧市街全体が世界遺産に登録されています。

colegio delibes / Enforex / donQuijote

❸ マドリード
Madrid

プラド美術館や王宮など見所いっぱいのスペインの首都。ショッピングやバル巡り、アート観賞も楽しめます。スペインの中心に位置し他の都市へのアクセスも良好。

Enforex / donQuijote

❹ セビーリャ
Sevilla

太陽と青い空がのスペイン南部、アンダルシア地方にある街。少し足を延ばすと、絵ハガキのような白い村が点在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じることができます。

clic / Enforex

❺ カディス
Cádiz

古くから貿易の拠点として栄え、西ヨーロッパで最古の街といわれる。夏は海水浴やウォータースポーツも楽しめます。また好天の多い恵まれた気候も特徴です。

clic

❻ マルベージャ
Marbella

コスタ・デル・ソルの中でも特に人気がある高級ビーチリゾート。美しい公園や庭園、世界トップクラスのゴルフコース、絵のように素晴らしい景色が広がる旧市街があります。

Enforex

❼ バルセロナ
Barcelona

独自の歴史と文化を育んできたカタルーニャの都。ガウディやダリなど数多くの著名人を輩出。「芸術の街バルセロナ」には、今も至る所に多くの芸術作品が残されています。

International House Barcelona / Enforex / donQuijote

❽ パルマ・デ・マジョルカ
Palma de Mallorca

バレンシアの東約80kmの地中海沖合にあるバレアレス諸島で最も大きな島。晴天の日が多く、天候と美しい自然に恵まれ「地上の楽園」と呼ばれる人気のリゾート地です。

International House Palma

❾ バレンシア
Valencia

「火祭り」とパエリア発祥の地として有名な、スペイン第3の都市バレンシア。地中海性の温暖な気候で過ごしやすく、ビーチリゾートとしても知られています。

Enforex / donQuijote

❿ アリカンテ
Alicante

海と山に囲まれ、美しいビーチが点在する都市アリカンテ。コスタ・ブランカと呼ばれる地中海の海岸沿いに位置し、1年を通して穏やかな気候で知られています。

Enforex

⓫ グラナダ
Granada

アルハンブラ宮殿のある世界的に有名なグラナダはアラブ文化の名残を留める古都。大都市にはない落ち着いた美しい街並みが素晴らしく、訪れる価値があります。

Enforex

⓬ マラガ
Málaga

コスタ・デル・ソルの中心地として有名なリゾート地。ピカソの出身地としても有名で、街にはピカソの生家や美術館もあります。国際空港があり、便利なアクセスも魅力。

clic / Enforex

⓭ テネリフェ
Tenerife

大西洋にあるカナリア諸島に属する島。年間を通して暖かく、常春の島とも呼ばれます。毎年2〜3月行われるカーニバルは世界的に有名。島の至る所でパレードが見れます。

donQuijote

手続きはカンタン!

まずは国・都市の情報収集をし、行き先や学校、滞在期間を決めましょう。学校のコースや滞在方法など、なんでもご相談ください。カウンセリングから入学手続き代行、ご出発までサポートしますのでご安心ください。代行手数料は無料です。

1 情報収集・カウンセリング

「何からはじめればいいの?」「どの街がおすすめ?」「費用はどれくらい?」など漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはお気軽にご相談ください。

2 行き先・学校・期間を決める

どんな留学生活を送りたいかをイメージしてみましょう。都会で学びたい、海がある街が良いなど自分に合った街を選ぶと留学生活もさらに充実!

Latinoamérica

中南米にある12ヵ国23都市の語学学校と提携しています。

① メキシコ México

首都はメキシコシティ、北アメリカ南部に位置する連邦共和制国家。北にアメリカ合衆国、南東にグアテマラ、ベリーズと国境を接し、西は太平洋、東はメキシコ湾とカリブ海に面しています。スペイン語圏において最も人口の多い国で、マヤやアステカの遺跡など歴史的な見所がたくさんあります。

International House Riviera Maya　リビエラ・マジャ校

donQuijote　グアナフアト校、オアハカ校
プラヤ・デル・カルメン校

③ グアテマラ Guatemala

グアテマラは古代マヤ文明発祥の地であり、紀元前2000年には、すでに人々は生活を営み、アメリカ大陸で最も発達した文明のひとつとなりました。この国の特徴は人口の大半が先住民とメスティソ（混血）の子孫だということ。中南米諸国の中でも先住民人口の比率が特に高い国です。

donQuijote　アンティグア校

⑤ コスタリカ Costa Rica

コスタリカは南西部で太平洋、北東部でカリブ海に面しており、北方でニカラグア、東方でパナマとそれぞれ国境を接しています。人口450万ほどの小さな国でありながら、中米で1人当たりの国民総生産が最も高い国。また国土の1/4を自然保護区に指定しており、環境保護に力を入れています。

donQuijote　サント・ドミンゴ・デ・エレディア校
プラヤ・ハコ校

⑥ コロンビア Colombia

コロンビア共和国、通称コロンビア、首都はボゴダ。南アメリカ北西部に位置する共和制国家です。ブラジル、メキシコに続き、コロンビアは中南米で第3位に人口が多い国です。主要産業はコーヒー、バナナ、さとうきび、じゃがいも、米、熱帯果実、石油、石炭、エメラルドなど。

International House Bogotá　ボゴタ校

donQuijote　ボゴタ校
カルタヘナ・デ・インディアス校

⑦ エクアドル Ecuador

エクアドルとはスペイン語で赤道を意味し、その名の通り赤道直下に位置します。国民の大半がメスティソ（混血）または原住民の子孫。小さな国ながら、積雪した火山、アマゾンの熱帯雨林など地形は非常に豊か。ホエール・ウォッチング、カヤックなど多岐に渡るアクティビティが体験できます。

donQuijote　キト校

⑧ ペルー Perú

南アメリカ大陸の太平洋沿岸中部に位置するペルー共和国。かつてはインカ帝国繁栄の地であり、植民地時代にも南アメリカの政治や経済、文化の中心として栄えた歴史を持ちます。ペルーには世界的に有名なマチュピチュ、ナスカ、モチェ、インカ文明の魅惑的な遺跡が多く残っています。

donQuijote　クスコ校

⑨ ボリビア Bolivia

ボリビアの国名は、独立運動の英雄シモン・ボリーバルの名にちなんだもの。世界で1番標高の高い町ラ・パスや世界一標高が高く泳ぐことができるチチカカ湖があります。ボリビアは南米でも貧しい国のひとつですが、魅力的な習慣と伝統が豊かな文化を作り上げています。

donQuijote　スクレ校

② キューバ Cuba

キューバは西インド諸島最大のキューバ島とその属島フベントゥ島などのサンゴ礁の小島群からなる社会主義共和国です。1492年にコロンブスが到達して以来、スペインによる植民地支配下に入りましたが、1898年の米西戦争におけるスペインの敗北を機に、1902年に独立を達成しました。

donQuijote　ハバナ校
サンティアゴ・デ・キューバ校
トリニダ校

④ ドミニカ共和国 República Dominicana

ドミニカ共和国は1492年コロンブスの第1回航海で発見され、スペインの植民地開発が初めて行われた地です。西側で国境を接するハイチがフランスの影響を強く受けているのに対して、ドミニカ共和国はスペイン的要素と20世紀以降のアメリカ的要素が多く見られます。

donQuijote　サント・ドミンゴ校
ソスア校

⑩ ウルグアイ Uruguay

国土面積が日本の半分ほどの小さな国ウルグアイ。気候は温暖で年間を通して過ごしやすいです。治安・生活・教育水準も安定しており、広大な草原地帯を活かした農業、牧畜業が盛んです。穏やかな環境下、国民も自由にのんびりと暮らしています。興行・文化活動も盛んで、サッカー、音楽、ガウチョ体験を楽しめます。

donQuijote　モンテビデオ校

⑪ チリ Chile

南北に細長く伸びる特徴的な国土のチリ。アルゼンチンやウルグアイと同じく、ヨーロッパからの移民の子孫が大半を占めています。ビーチや活火山、アンデス山脈と豊かな自然に囲まれています。チリはその細長い地形から気候も地域によってかなり差があります。

donQuijote　サンティアゴ・デ・チレ校

⑫ アルゼンチン Argentina

ブラジルに次ぐ南アメリカ第2の大国。国民の大半はヨーロッパからの移民の子孫です。この国の特徴はイグアスの滝、アンデス山脈、パンパス平原や砂漠など自然の恩恵を存分に受けていること。美しい地形のアルゼンチンはアウトドアスポーツが好きな人にとって最適な国です。

donQuijote　ブエノスアイレス校
バリローチェ校
コルドバ校
メンドーサ校

3 コース・滞在方法を決める

授業料などは公表している正規の料金を、現地通貨のままご案内しています。滞在方法は、ホームステイや共同アパート（ピソ）など、ご自分にあった滞在スタイルをお選びください。

4 手続き代行 申込書の記入

指定の申込書にご記入の上、スペイン留学.ｊｐへご提出ください。お申込み内容を確認後、正式に学校への申込み手続きを開始。お申込書の記入は日本語だけでOK！

5 渡航準備

航空券や保険、また学生ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集めて所定の機関へ提出します。
※ビザの申請代行や航空券、海外旅行保険などの手配はサポートに含まれません。

6 留学費用のお支払い

留学費＋海外送金費（6,500円）を日本円で指定口座へご入金ください。外貨建ての金額は請求書発行日のＴＴＳレートを基準に換算します。

出発

留学費用例 Tarifas para estudiar en España y Latinoamérica

ここではみなさんが一番気になる留学費用をご案内。街や学校、滞在先によっても大きく異なります。

［共通項目］ ●グループレッスン週25 ●ホームステイ（1人部屋・2食付・バス共同） ●共同アパート（1人部屋・食事無・バス共同） ●学生寮（1人部屋・朝食付・プライベートバス）

IH Valencia バレンシア

2週間 ［グループレッスン］	400€	¥52,000		合計
ホームステイ	390€	¥50,700	790€	¥102,700
共同アパート	250€	¥32,500	650€	¥84,500
2ヶ月 ［グループレッスン］	1.600€	¥208,000		合計
ホームステイ	1.560€	¥202,800	3.160€	¥410,800
共同アパート	1.000€	¥130,000	2.600€	¥338,000
1年 ［グループレッスン］	7.680€	¥998,400		合計
ホームステイ	9.360€	¥1,216,800	17.040€	¥2,215,200
共同アパート	6.000€	¥780,000	13.680€	¥1,778,400

Enforex Salamanca サラマンカ

2週間 ［グループレッスン］	378 €	¥49,140		合計
ホームステイ	318 €	¥41,340	696 €	¥90,480
共同アパート	298 €	¥38,740	676 €	¥87,880
2ヶ月 ［グループレッスン］	1.432 €	¥186,160		合計
ホームステイ	1.272 €	¥165,360	2.704 €	¥351,520
共同アパート	1.192 €	¥154,960	2.624 €	¥341,120
1年 ［グループレッスン］	7.632 €	¥992,160		合計
ホームステイ	7.632 €	¥992,160	15.264 €	¥1,984,320
共同アパート	5.364 €	¥697,320	12.996 €	¥1,689,480

Escuela de Idiomas Nerja マラガ

2週間 ［グループレッスン］	388 €	¥50,440		合計
ホームステイ	384 €	¥49,920	772 €	¥100,360
学生寮	392 €	¥50,960	780 €	¥101,400
2ヶ月 ［グループレッスン］	1.278 €	¥166,140		合計
ホームステイ	1.536 €	¥199,680	2.814 €	¥365,820
学生寮	1.568 €	¥203,840	2.846 €	¥369,980
1年 ［グループレッスン］	7.078 €	¥920,140		合計
ホームステイ	9.216 €	¥1,198,080	16.294 €	¥2,118,220
学生寮	9.408 €	¥1,223,040	16.486 €	¥2,143,180

donQuijote Guanajuato メキシコ /グアナフアト

2週間 ［グループレッスン］	$590	¥64,900		合計
ホームステイ	$450	¥49,500	$1,040	¥114,400
共同アパート	$450	¥49,500	$1,040	¥114,400
2ヶ月 ［グループレッスン］	$2,280	¥250,800		合計
ホームステイ	$1,800	¥198,000	$4,080	¥448,800
共同アパート	$1,800	¥198,000	$4,080	¥448,800
1年 ［グループレッスン］	$13,200	¥1,452,000		合計
ホームステイ	$10,800	¥1,188,000	$24,000	¥2,640,000
共同アパート	$10,800	¥1,188,000	$24,000	¥2,640,000

Lacunza サン・セバスティアン

2週間 ［グループレッスン］	350 €	¥45,500		合計
ホームステイ	482 €	¥62,660	832 €	¥108,160
共同アパート	270 €	¥35,100	620 €	¥80,600
2ヶ月 ［グループレッスン］	1.184 €	¥153,920		合計
ホームステイ	1.928 €	¥250,640	3.112 €	¥404,560
共同アパート	1.080 €	¥140,400	2.264 €	¥294,320
1年 ［グループレッスン］	7.680 €	¥998,400		合計
ホームステイ	11.218 €	¥1,458,340	18.898 €	¥2,456,740
共同アパート	6.130 €	¥796,900	13.810 €	¥1,795,300

学校によって登録料、教材費、宿泊手配料が別途かかります。海外送金手数料として1校につき6,500円はお客様負担です。2018年度の料金表を参考に作成しており、今後変更になる場合がございます。予めご了承ください。

1€＝130円、1$＝110円で計算

スペイン・中南米への留学は
スペイン留学.jp

ご希望に合った学校選びや、プランの作成など幅広くお手伝いしております。漠然とイメージされている留学プランや目的・期間・ご予算など、まずはお気軽にご相談ください。

携帯・スマホからはこちらへQRコードを読み込んでください。

資料請求／お問い合わせ
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp

5都市にご相談窓口
大阪 ☎ 06-6346-5554 | 神戸 ☎ 078-230-2022 | 名古屋 ☎ 052-766-6406
東京 ☎ 03-6869-6435 | 福岡 ☎ 092-517-9535 |
受付時間 月～土 8:30–21:30

有限会社 ADELANTE

スタッフは全員留学経験者
入学手続き0円で代行！ スペイン留学.jp

スペイン・中南米 留学セミナー

都市、学校・コース、滞在方法、
費用、学生ビザ準備方法等を
詳しくご説明いたします！

参加者プレゼント★
スペイン留学.jp
オリジナルグッズプレゼント！

東京 大阪 神戸

★の日は、現地語学学校スタッフが来日します！

8月～10月 OSAKA

2018年8月31日(金) 19:30～
9月8日(土) 12:30～
9月29日(土) 12:30～
★ 10月27日(土) 12:30～

場所 スペイン語教室ADELANTE 大阪校
〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F

いつかスペイン語圏に留学してみたいな～
というあなたへ！お気軽にご参加下さい♪

※セミナーとカウンセリングは完全事前予約制です。
参加ご希望の方は必ず事前にお申込ください。

上記日時以外でも随時個別カウンセリングを受け付けております。

10月 TOKYO

★ 2018年10月21日(日) 14:30～

場所 NPO法人留学協会 会議室
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-6-10 MOビル201

10月 KOBE

★ 2018年10月28日(日) 16:30～

場所 スペイン語教室ADELANTE 神戸校
〒651-0084
兵庫県神戸市中央区磯辺通1-1-18
カサベラ国際プラザビル9F

お問合せはこちら
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp
☎ 06-6346-5554 (大阪本社)
受付時間:月～土 8:30～21:30 スペイン留学.jp (有限会社ADELANTE)

mercado latino

スペイン語月刊フリーペーパー
MERCADO LATINO
中南米に強い旅行代理店や輸入食品店、Agencia EFE等の
スペイン語の各種記事など情報盛り沢山！

オンライン版:
www.mercadolatino.jp/digital

便利情報や主要ニュースを紹介するFacebookも是非ご覧下さい:
https://www.facebook.com/mercadolat
ユーザーから書き込まれたネイティヴならではのコメントも楽しめます！

スペイン語ニュースサイト
www.noticias.jp
Japón – Perú – Internacional
日本のニュースもスペイン語で伝えているので、スペイン語学習に最適！

お問い合わせ:
MERCADO LATINO
E-mail: marketing@mercadolatino.jp
Home Page: www.mercadolatino.jp
TEL: 06-6314-6582

¡Vamos a hablar español!

スペイン語で話そう

Lección 16

～だと思います。
Creo que ...

自分の考えを言うときの表現：「私は～だと思います」

¡Hola! みなさん、こんにちは。今回は動詞「creer（思う、信じる）」を使って自分の考えを相手に伝える練習をしましょう。
動詞の後ろに関係代名詞「que」を置いて、その後に自分が思う内容の文をつければ OK です。
「私は～だと思います / Creo que ～」はスペイン語会話で頻出表現なので、このまま暗記してしまいましょう。

「私は～だと思います」文の作り方

主語	動詞 creer	関係代名詞	
Yo	creo		
Tú	crees		
Él, Ella, Usted	cree	que	...
Nosotros	creemos		
Vosotros	creéis		
Ellos, Ellas, Ustedes	creen		

例1）Yo creo que esa chica es hija de Mario. あの女の子はマリオの娘だと思う。
¿Tú crees? Vamos a hablar con ella. そう思うかい。彼女と話してみよう。

例2）¿Quién es el más inteligente en la clase? クラスで一番賢いのは誰だろう。
Creemos que es Juana. 僕たちはフアナだと思います。

便利な相槌フレーズ

Creo que sí. 私はそう思います。
Creo que no. 私はそうは思いません。

前の文章を受けて、自分がその内容に賛同するか・しないか、すぐに相手に伝えられる表現です。意思表示にとても便利なフレーズなので、そのまま覚えてしまいましょう。

creer の類似動詞

pensar que...	～と考える
suponer que...	～だと推測する
confiar en que...	～だと信じる
considerar que...	～だとみなす
juzgar que...	～だと判断する
sospechar que...	～ではないかと疑う

例）Pienso que es mi bolsa. それは私の鞄だと思います。
Suponemos que es un error. 私たちはそれは間違いであると推測します。

スペイン語教室 ADELANTE
・目的やペースに合わせて選べるコース
・ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語がマスターできる！
・振替ができるので忙しくても安心！
・月謝払い制度
・一般参加 OK な特別クラス開講
無料体験レッスン 教室見学など 随時受付中！
スペイン語教室 ADELANTE
大阪校 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2 F TEL: 06-6346-5554
神戸校 〒651-0084 兵庫県神戸市中央区磯辺通 1-1-18 カサベラ国際プラザビル 9F TEL: 078-230-2022
www.adelante.jp

AVANZAMOS A1
● 日本の学習事情を考慮して作られた西語で西語を学ぶ入門者向けテキスト
● 個人授業 / グループ授業 使用可
● 充実の 104P（オールカラー）・CD 付
● ¥1,944（税込）
アデランテショップで好評販売中！
www.adelanteshop.jp

clic
Centro de Lenguas e Intercambio Cultural

International House
Sevilla, Cádiz y Málaga

スペインのエッセンスがつまった セビリア、カディス、マラガで語学留学

- 語学教育と講師養成コース等で世界的に定評のある**International House**メンバー校
- **1**週間の短期から長期までご希望のコース期間が選択可能
- **DELE**試験開催校（年**3**回）として安心と信頼の**DELE**対策コース
- 現地日本人スタッフによる安心のサポート

Instituto Cervantes
Centro Acreditado

CLIC International House Sevilla, Cádiz y Málaga
クリック・インターナショナルハウス・セビリア、カディス＆マラガ
Email: japan@clic.es（日本語でどうぞ）
www.clic.es/jp（日本語サイト）

IALC

使えるスペイン語を学ぼう

Español práctico vol.10

旅行や留学で使える実践的なスペイン語を学ぶコーナー。第 10 回では、贈り物と一緒に渡されるギフトチケットを見てみましょう。

¿ Qué me regalas ?

ギフトチケット

スペイン人からの贈り物が届いたとき「TIQUE REGALO」という券も一緒に受け取ることがあります。
これはギフトチケットといって、サイズやデザインが自分に合わなかったとき、お店で別の商品と交換できる券です。

ANVERSO（表面）

El Carro Inglés ①

Hermosilla, 110, 28009 Madrid

② **TIQUE REGALO**

③ Este regalo es para

De

7FHK2197FK3197EOVMY29WVFB5

Vendedor	T.T	EmpCent	Operac.	Fecha	Hora	EdPlZn
67347294	3	0010037	03413689	03/ene/17	20:15	010990

④

CÓDIGO DE CONTROL : 9015F9263F

⑤ Descripción ⑥ Cantidad

LIBROS 1 ud

⑦ Dpto: 0065 ⑧ Código: 9788416325419

4500 PLAZAS DE APARCAMIENTO GRATUITO

⑨

⑩ CAMBIOS Y DEVOLUCIONES:

Dispone de 15 días desde la entrega, con la mercancía sin utilizar.
RECUERDE QUE ESTE JUSTIFICANTE ES NECESARIO PARA CUALQUIER CAMBIO O DEVOLUCIÓN DE LA MERCANCÍA QUE ACOMPAÑA

REVERSO（裏面）

⑪ **ANTENCIÓN AL CLIENTE 9XX 122 122**

⑫

Conserve este tique. Su presentación es necesaria para cualquier comprobación, cambio o devolución. Si no queda satisfecho, le devolvemos su dinero. El importe se reintegrará en la misma forma de pago de la compra, excepto devoluciones con tique regalo, que será en tarjeta de abono.

Cambios y devoluciones: Se admitirán en centros de la misma empresa, salvo las excepciones informadas y con igual fiscalidad.

El Real Decreto Legislativo 1/2007 de 16 de Noviembre otorga a los bienes de naturaleza duradera una garantía legal de 2 años a partir de la fecha de compra y/o entrega.

⑩ 返品交換をご希望の場合は、未使用の場合に限り商品ご購入から 15 日以内にお受けいたします。その際に本ギフトチケットが必要となりますのでご了承ください。

⑪ お客様相談室（電話番号 9XX-122-122）

⑫ このギフトチケットは各自保管いただき、返品交換の際には必ずご持参ください。商品にご満足いただけない場合は全額返金いたします。返金方法はお支払いいただいた際と同じ方法で返金いたしますが、ギフトチケットの場合に限り商品券をお渡しいたしますのでご了承ください。
返品交換について：一部税収の違う地域を除き、各店舗にて受付いたします。
2007 年 11 月 16 日よりスペイン国立法政令に基づき、製品ご購入日より２年間が保証期間となります。

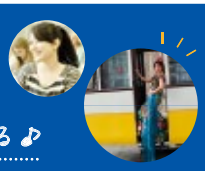
① 店名
② ギフトチケット
③ このギフトは○○様へ ×× 様より
④ セキュリティ番号
★このチケットが本物という意味
⑤ 詳細（内容品）
⑥ 数量
⑦ セクション番号
⑧ 店番号
⑨ 返品交換

vocabulario ギフトに関連する単語を学習しましょう！

artículo	商品	sorpresa	サプライズギフト
vale de compra	商品券	obsequio	プチギフト / 贈呈品
envoltura	包装	regalo dirigido a	…宛のギフト
entrega	商品引き渡し	de calidad superior	高級な

spain ryugaku 留学.jp

スペイン留学.jpなら
1週間からのプチ留学も
フラメンコなどのお稽古留学もできる♪



スペイン・中南米への留学はスペイン留学.jp

お問合せはこちら
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp

大阪 06-6346-5554 神戸 078-230-2022 名古屋 052-766-6406
東京 03-6869-6435 福岡 092-517-9535

有限会社 ADELANTE 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F

donQuijote
スペイン語コース

1986年創立

スペイン語を生きよう
スペイン　ラテンアメリカ

年間3万5千人・85ヶ国からの留学生が受講中（アジアからの留学生は10%以下）。

スペイン・メキシコ・コスタリカ・エクアドル・ラテンアメリカ諸国計32都市の校舎にて受講頂けます。

多彩なスペイン語コースから、あなたのニーズにあったコースをチョイス。

徹底した少人数制（最大8名・平均4名）。

現地日本人スタッフのきめ細やかなサポート。

ヘッドオフィス　Tel.: +34 91 594 37 76　|　keiji.tanimura@donquijote.org

アリカンテ/バルセロナ/グラナダ/マドリッド/マラガ/マルベーリャ/サラマンカ/セビリア/テネリフェ/バレンシア（スペイン）
アルゼンチン/ボリビア/チリ/コロンビア/コスタリカ/キューバ/ドミニカ共和国/エクアドル/グァテマラ/メキシコ/ペルー（ラテンアメリカ）

Instituto Cervantes Centro Acreditado

www.donQuijote.org/jp

ideal education group

スペイン語講座 Lección 34

今回のテーマ

条件の接続詞 si 等の表現について (2)

Sobre la conjunción condicional *si* y otras expresiones (2)

今号では前号に続いて「条件文」(oración condicional)を扱います。33号ではsiの条件文の基本を確認したので今回はその続きとなります。

さて，それではsi以外の代表的な表現を見ていきましょう。まずは，“como＋接続法”です。

Como llueva mañana, nos quedaremos en casa.
明日雨が降れば家にいよう。

comoの節は通常前置されます。重要な点は前件の動詞の形がsiの条件文とは異なることです(後件は同じです)。siを使う場合は，Si llueve mañana, nos quedaremos en casaと「si＋直説法現在」となります。ただし，反実仮想の場合はsiとcomoでは動詞の使い方は同じです。

Si tuviera dinero, iría a Barcelona.
＝Como tuviera dinero, iría a Barcelona.

以下の接続詞句も用法はcomoと同じです。つまり，siの条件文のみが特殊だと考えてください。

さてそれでは，条件接続詞句を見ていきましょう。これらはどちらかと言えば書き言葉でよく使われます。

Con tal (de) que me lo devuelvas la semana que viene, te prestaré mi ordenador.
もし来週返してくれるならば僕のパソコンを貸してあげよう。

con tal (de) queは，通常望ましい仮定を表すために使います。最小の条件(～するだけで)というニュアンスがあります。なお，deはあってもなくても構いません。

以下の構文では名詞に本来の意味が残っています。en (el) caso de que～(～する場合は)，a condición de que～(～する条件で)，a cambio de que～(～する代わりに)などがあります。例を1つだけ挙げておきます。

Te pediré la colaboración en caso de que yo la necesite.
必要な場合は君に協力を頼むだろう。

次に紹介するのは否定的な意味の条件接続詞句です。a no ser que～(～しなければ)，a menos que～(～する以外)，salvo que～，excepto que～(a menos que～とほぼ同意)などがあります。

A no ser que se oponga algún miembro, cambiaremos el reglamento de la asociación.
会員の誰かが反対しない限り会則の変更を行います。

“de＋不定詞”で条件を表すことができます。

De enterarme de algo nuevo te informaré de ello.
何か新しいことに気づいたら君に報告するよ。

不定詞を完了形にすることで反実仮想の過去になります。

De haber conducido con más prudencia habrías evitado ese accidente de tráfico.
もっと慎重に運転していれば君はその交通事故は防げただろうに。

さて次は前件が文でないものや慣用的なものを例文とともに見てみましょう。

Sin su ayuda no hubiera sido posible la publicación de mi libro.
あなたの助けなしでは私の本の出版は可能ではなかったでしょう。

En tu lugar yo no viajaría por una zona tan peligrosa.
私が君の立場ならそんな危ない地域を旅行しないだろうね。

Yo que tú no me habría comportado tan mal.
もし僕が君ならそんなに悪い態度を取らなかっただろう。

いずれの例文も前半部は事実と反対のことを表現していて，反実仮想の前件文の代わりとして働いています。

また，現在分詞や過去分詞を使った構文で条件を表すことがあります。

Pensándolo bien me he dado cuenta de que tenías razón.
よく考えてみると君が正しかったことに気付いた。

Despejadas estas chabolas tendríamos un amplio terreno para construir un edificio moderno.
これらの貧しい家屋を取り除くと，近代的なビルを建てる広い土地になるだろうに。

現在分詞にも過去分詞にもそれ自体で条件の意味があるのではなく，文脈によって条件の意味として解釈されていることに注意してください。

さて続いて，等位文(～ y ～，～ o ～)で条件の意味を表現するケースを見てみましょう。

Aprueba todos los exámenes y te compraré la moto.
試験，全部合格しろよ。そうするとバイクを買ってやるよ。

Acábate la cena o no verás la tele.
晩ご飯を終わってしまえ。じゃないとテレビ見ないよね。

続いて，逆に接続詞siを用いながら意味的に少し条件と言い難いものを取り上げます。実際スペイン語の「si～」という文を日本語の「もし～ならば」に訳して考えるとわかりにくいケースがあります。

Si antes ellos iban juntos a cualquier parte, ahora no se hablan.
以前彼らはどこへ行くのも一緒だったのに今では話もしない。

この文は条件というよりもむしろ「譲歩」を意味しています。

Si Madrid tiene el Real, Barcelona tiene el Barça.
マドリードにレアルがあるとすれば，バルセロナにはバルサがある。

これはsiの対比(contraste)用法とでも言えばよいでしょうか。SiをMientras(～の一方)に置き換えるとわかりやすいでしょう。

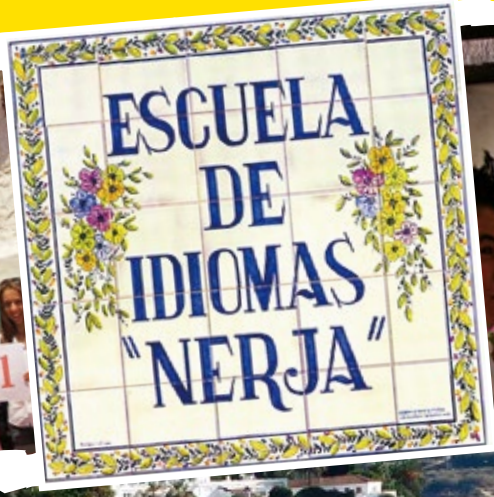
次の例文は「皮肉」を表現する口語的表現です。

Si ese tío es científico, yo soy Einstein.
もしやつが科学者ならば俺はアインシュタインだ。

この構文は反実仮想の形式になっていませんが，「私」はアインシュタインでないので事実には反します。自分は天才学者アインシュタインではないということに引っ掛けて「あいつはヘボ研究者だ」とか「研究者ですらない」と揶揄する誇張的な用法です。

条件文はたいへん複雑なので2号に渡って解説しました。基本的な用法から確実に身につけていってください。

仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai
立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語―文法と演習―』(共著、同学社)などがある。



アンダルシアでスペイン語を学ぼう。

アンダルシア流の
生活を楽しみ、
文化を体験しよう！

生きたスペイン語を学べるコースと
充実したアクティビティ・プログラム

選べる滞在スタイル

• 学生用ホテル（クラブ・コスタ・ネルハ） • アパート • ホームステイ

Escuela de Idiomas Nerja ~ C/Almirante Ferrándiz 73 ~ 29780 Nerja ~ Málaga

info@idnerja.com ~ www.idnerja.com

ビジネス スペイン語

NIVEL 中級(B2)以上

Vol.15

上場企業ともなると国内外で事業運営上発生し得る法的諸問題に適切に対応するため、社内に法務部門を擁しています。企業によってはこの部門の中に、特許や商標、意匠などの登録・維持手続担当の知的財産、国際取引に関連した国際契約や国際法務、あるいはリスク管理などの部署が設けられています。今回はその関連用語に注目します。

伊藤 嘉太郎先生
Yoshitaro Ito
長年の海外経験を活かし、大学でのビジネススペイン語非常勤講師などを歴任。

☑ 今回は普段あまり触れることのない法務関連の用語を学んでみましょう。

ejemplo 1

El departamento jurídico que se encuentra en nuestra oficina central, está dando asistencia profesional a todas las compañías filiales del grupo para atender los asuntos legales.

弊社本社にある法務部は、法律関連の事案に対処するため傘下の全子会社に職能支援を行っている。

ejemplo 1

1. el departamento jurídico：法務部、“persona jurídica”は“法人”、“personalidad jurídica”は“法人格”
2. asistencia profesional：職能支援、“人事、経理、法務、IT”などは一般に職能部門と呼ばれる
3. todas las compañías filiales：(傘下の)すべての子会社、“compañías afiliadas”とも言う、“subsidiarias”は“関連会社”
4. atender los asuntos legales：法的事案(案件)に対処する

ejemplo 2

Especialistas de propiedad intelectual se encargan de tramitar registros de muchas patentes que nuestra empresa genera anualmente, siempre en coordinación con un despacho de abogados de marcas y patentes y propiedad intelectual.

知的財産の専門家は弊社が毎年生み出すたくさんの特許の登録手続きを、商標・特許や知的財産弁理士事務所と常に提携し行っている。

ejemplo 2

1. especialistas de propiedad intelectual：知的財産(知財)の専門家
2. tramitar registros de muchas patentes：たくさんの特許の登録手続きをする
3. en coordinación con：提携して、連携して
4. un despacho de abogados de marcas y patentes：商標・特許弁護士事務所(弁理士という名称はスペイン語圏にはなく、その分野の弁護士が担当する)

ejemplo 3

En el mismo departamento jurídico trabajan otros profesionales a cargo de formalizar convenios internacionales, tanto para la formación de empresas conjuntas con socios extranjeros, como para el ofrecimiento de asistencia técnica para la producción o el uso de patentes de nuestra propiedad.

同法務部に国際契約締結担当の別の専門家もいて、外国人パートナーとの合弁企業設立や製造上の技術援助あるいは弊社所有の特許使用の提供を行っている。

ejemplo 3

1. formalizar convenios internacionales：国際契約(書)を締結する
2. la formación de empresas conjuntas：合弁企業の設立,“formación”は企業内では“社員の育成”という意味でも使われる
3. con socios extranjeros：外国人パートナー、“socio”は特定クラブの“メンバー”という意味もある
4. el ofrecimiento de asistencia técnica para la producción：製造のための技術援助の提供
5. el uso de patentes de nuestra propiedad：弊社所有のパテントの使用

ejemplo 4

Hay un grupo especial a cargo de negociar la fusión o adquisición de otras empresas, como una medida para el rápido desenvolvimiento de la empresa, con la asistencia del prestigioso bufete de abogados en esta especialidad.

特別グループがあり、弊社の急速な発展のための方策として 合併や他企業の買収を担当しているが、この専門分野で著名な弁護士事務所の支援を得て行っている。

ejemplo 4

1. a cargo de negociar la fusión: 合併交渉を担う
2. adquisición de otras empresas：他企業の買収,“Fusión y Adquisición”が英語の“M&A(Mergers & Acquisitions)”つまり“企業の合併と買収”に対応する表現
3. como una medida para el rápido desenvolvimiento：急速な発展のための方策として
4. el prestigioso bufete de abogados en esta especialidad：この専門分野で著名な弁護士事務所

ejemplo 5

Las actividades de nuestra empresa están expuestas en todo momento a toda clase de riesgos, como fallas de productos o servicios, drásticos cambios del entorno, actos fraudulentos internos, etc., por lo que la gestión de riesgos debe ser de mayor prioridad para la cúpula administrativa.

弊社の活動はあらゆる類のリスクに絶えず晒されている。例えば製品・サービスの欠陥、経営環境の急激な変化、社内の不正行為などである。従って、リスク管理は経営陣にとって最優先とすべきことである。

ejemplo 5

1. están expuestas en todo momento a：常に〜に晒されている
2. fallas de productos o servicios：製品やサービスの欠陥
3. drásticos cambios del entorno：経営環境の急激な変化
4. actos fraudulentos internos：社内の不正・背任行為
5. la gestión de riesgos：リスク(危機)管理、中南米では“el control de riesgos”とも表現
6. de mayor prioridad：最優先の
7. la cúpula administrativa：経営陣

企業の事業活動がグローバル化する中で、法務部門で働く人にとって語学力の重要度は増すばかりです。その気にならないと専門用語はなかなか頭に入りません。次回も会社組織の別の部門をのぞいてみます。

もっと詳しく知りたい方は...
中級ビジネス
スペイン語特別講座

【対象者】
現役のビジネスパーソンでビジネススペイン語力を高めたい方、
将来スペイン語を使った仕事に就く予定・計画のある方、
スペイン語のステップアップとして実践的なスペイン語学習を求める方

【講座内容】
ビジネス関連情報の読み取り方、顧客への自社業務・担当業務の説明、
E-mail による社内外とのコミュニケーション等

【講座概要】
計 6 講座（各 90 分）
定員：4 〜 5 名の少数クラス
（最小実施人数 3 名）
講師：伊藤嘉太郎
場所：スペイン語教室 ADELANTE
大阪校｜神戸校

スペイン語 ADELANTE
www.adelante.jp

【お問合せ】スペイン語教室ADELANTE　大阪校 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F　TEL: 06-6346-5554　FAX: 06-6110-5122
神戸校 〒651-0084 兵庫県神戸市中央区磯辺通1-1-18 カサベラ国際プラザビル9F　TEL: 078-230-2022　FAX: 078-230-2023

International House
San Sebastian

LACUNZA

サン・セバスティアンでスペイン語と文化を学ぼう！

ラクンサ・インターナショナル・ハウスは，スペイン北部
バスク地方のサン・セバスティアンにあります。

スペインとバスク，伝統と革新。
2つの文化が融合するサン・セバスティアンは，食文化で世界的に有名な街です。

サン・セバスティアンで，スペイン語と文化を学び，新しい味の体験を！

+25
年の実績

独自の文化

お問い合わせは

Lacunza International House
Camino de Mundaiz 8,
Entlo D, 20012
San Sebastián,
España

+34 943.32.66.80
info@lacunza.com
www.lacunza.com

lacunza.ihsansebastian
lacunzaih
lacunzaihss

D.E.L.E.試験準備コース4週間

インターナショナル・ハウス提携校

Diplomas de Español como Lengua Extranjera

Centro Acreditado

fedele
Federación de Escuelas de Español Lengua Extranjera

IALC

イラスト解説

スペイン語 慣用表現

vol.5

原案 / Francisco Torregrosa　翻訳・イラスト / Nagisa Miyata

スペイン語のユニークな慣用表現を学びましょう！
今回のテーマは「Empresario（企業主、事業家）」です。
どんな表現があるのか、イラストと一緒に覚えましょう。

Ser cocinero antes que fraile

VS

Llegar y besar el santo

Ser cocinero antes que fraile

修道士になる前は調理師である→堅実にキャリアアップしていく

最初は見習いや下っ端からスタートして、腕を磨きながら、上のステップに上がっていくこと。これまで経験した職の実務経験と、確かな技術、能力を持っている者。

El presidente fue cocinero antes que fraile, por eso conoce todos los rincones de la empresa.

社長は修道士になる前は調理師だった（様々な分野での実務を経験した）、だから会社のことは隅々まで網羅している。

Llegar y besar el santo

聖人の下へ行き接吻する→恩恵で簡単に地位を手に入れる

身内だからという理由で親の会社を継いだり、天下りなどで高い地位や役職につくこと。努力をせずに、いとも簡単に欲しいものを手に入れること。

Mario entró en la empresa y fue llegar y besar el santo ... al mes ya era vicepresidente.

マリオは会社に入社したが、特別なコネを持っていた…1ヶ月後にはもう副社長になっていた。

Estar al pie del cañón

VS

Brillar por su ausencia

Estar al pie del cañón

大砲の発射台の前にいる→自ら現場の指揮を取る、仕事を進める

仕事を人任せにせず、自分から主体的に引き受け、調整し、進めていくこと。現場では監督を怠らず、現場にいない時も関連事項の勉強を怠らない。

El presidente es quién menos vacaciones coge durante el año ... siempre está al pie del cañón.

社長は年間の休暇が人よりも少ない。常に自ら率先して仕事を指揮している。

Brillar por su ausencia

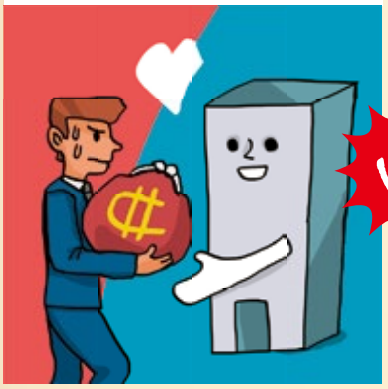
不在によって目立つ→現場にいないことが当たり前

現場に顔を出さないのが当たり前になっている者。「ausencia」は不在、欠席。

El presidente de nuestra empresa siempre brilla por su ausencia ... para hablar con él hay que ir al club de golf.

私たちの会社の社長は、いないことが当たり前です……彼と話したければゴルフクラブに行かなければなりません。

Por su cuenta y riesgo



VS

Mirando al Boletín (BOE)

Por su cuenta y riesgo

自分自身の責任で

リスクを伴うことを実行する時、失敗しても自分の損・責任になることを覚悟する。投資の場合でいえば、身銭を切る。

Siempre que Miguel invierte en un nuevo negocio lo hace por su cuenta y riesgo.

ミゲルはいつも新しい事業に投資する時は、身銭を切っている。

Mirando al Boletín (BOE)

官報を読みながら→国の金で投資する、自分の懐を傷めない

BOE は Boletín Oficial del Estado の略で、スペインの政府公報、官報のこと。それを読みながら、投資する時は助成金など国の金を使うこと。

Mario, nunca se equivoca invirtiendo porque lo hace mirando al BOE ...

マリオは投資に失敗したことは決してない……官報を読みながら国の金でやっているからだ。

Tener vista

VS

Dejar pasar balones delante de la portería

Tener vista

先見の明がある

これから起こりそうな事態を先読みする力がある。人より先に動くことができる。

Carlos, tiene mucha vista para los negocios porque siempre está muy bien informado.

事業関連のことなら、カルロスにはものすごい先見の明がある。なぜならいつも、彼は非常に優れた情報通だからね。

Dejar pasar balones delante de la portería

ボールがゴールに入るのを許してしまう→事態を予測できない

次に何が起こるのかを予測できず、失敗してしまうこと。

La empresa de Miguel ha ido a menos porque ha dejado pasar muchos balones delante de la portería.

起こりうる事態を想定する力が大いに欠けていたため、ミゲルの会社は傾いてしまった。

NÚMERO 3

スペインと日本をつなぐ人びと

インタビュー・文＝中村美和（プロフィールはp.46）

España Japón

Shoko Muraoka

村岡紹子
Orquesta Sinfónica de Madrid
バイオリン奏者

7月31日京都で行われる、海外で活躍する音楽家らで結成された「Musica 14.8」の演奏会に出演予定
musica148.jimdo.com

上）エルサルバドルの小さな音楽家たちと一緒に
下）世界三大テノール、プラシド・ドミンゴ、指揮者のジェームス・コンロン、オーケストラの同僚たち

YouTube
インタビューの動画を配信中

スペインの各分野で活躍する日本人にインタビューするシリーズ第三弾。今回は、マドリード王立劇場のオーケストラの一員として、日々バイオリンを演奏する村岡紹子さんに話を伺った。

紹子さんがマドリードに初めてやってきたのは20年前だった。留学先のベルリンからマドリード・シンフォニー・オーケストラのオーディションに合格し、すぐに採用が決まったものの、スペイン語については“グラシアス”も知らなかったという状況だった。

「幸いにして音楽用語はフォルテ、ピアノ、クレッシェンドなどイタリア語も多いし、音楽家としては問題なかったけれど、一番困ったのは休憩時間とアフターワーク。ただ、うちのオーケストラは、現在106名で30カ国の異なる国籍からの出身者がメンバーで、ドイツ人もいたし、ドイツで勉強された方も多くいたので、最初はドイツ語でコミュニケーションがとれた。でもそのうちドイツ語ではだんだん話してくれなくなって、『スペイン語だけ』と」

最初の3年はとにかく練習する曲が多く、楽譜に埋もれるような毎日だった。

そんな中で、「楽譜の中でわからないことがあったら、やっぱり自分から聞く」、そのためにもスペイン語がとても重要だった、と当時を振り返る。

「わからないから喋らないじゃなくて、わからないからこそ喋ったほうがいい。そうしたら、必ず助けくれる人がいて、『紹子は一体何を言ってるんだ?』って言いながらも、『何がしたいんだ』、『何が言いたいんだ』と歩み寄ってくれる」

自信がないときこそ、とにかく飛び込んで、受け身にならずに気持ちを伝える努力をする大切さを実感したそうだ。

「自分が閉ざしてしまうと、向こうも閉ざす。こっちはやっぱりコミュニケーションを大切にしているし、ひとつの団体がひとつの物を作り上げるには、特にコミュニケーションが大切」

同じ曲を演奏しても、同じ演奏になることは二度とない。

その瞬間瞬間で、出来うる限りの最高の舞台を作り上げるためには、妥協せずに話し合っていくことが重要なのだという。

「違う人種で、違うメンタリティで、いろんな人がいるんだけど、一緒に演奏するとわっとひとつになる。とっても不思議な力が出る。やめられませんね」

そんな彼女の活躍の場は、スペイン・日本に留まらず、昨年は、オーケストラから派遣されたエルサルバドルで、現地の子供たちに音楽を教えるプロジェクトに参加した。

エルサルバドルには、対立するふたつのテロ組織があり、日々抗争が続いているそうだが、そこの子供たちのための学校をスペイン人の神父が創立し、数学などの一般教科だけでなく、鉄工や大工など生きていくための職業訓練から、音楽や美術などの文化教養まで多岐にわたる教育が行われている。

将来、もしかしたら殺し合う立場に分かれてしまうとしても、唯一、そこでだけは大人たちの対立や暴力から隔絶され、朝6時半から夜8時まで、両陣営の子供たちが一緒に勉強しているのだ。

そこに、紹子さんたちプロの音楽家たちが派遣され、2週間の集中レッスンとコンサートを行った。

「子供たちと一緒になって、音楽を作っていく。そして、たくさんの拍手をもらって、感動して、それが子供たちの未来につながっていけばと思う」

このプロジェクトは2018年の秋にも第2回目の派遣を計画しており、紹子さんも子供たちとの再会を楽しみにしている。

「可哀想な子供たちにバイオリンを教えます、じゃない。『勉強したい』という気持ちは、私が子供の頃とまったく同じで、ただ環境が違うだけ。だから対等に扱う。そうすると、子供たちも食いついてくる。可哀想な国で子供たちを教えて偉いですね、と言う人もいるけど、それは違う。彼らの心と頭の良さは凄い。だからこそ、難しい環境にあるなら、私たちが行くことに意味がある」

音楽の力を信じる音楽家たちが、遠いエルサルバドルでも、音楽を通じて子供たちが自分たちの人生を切り開いていってくれることを願って、今年もアメリカ大陸へ旅をする。

ピアニスト・下山静香の

音楽の時間

スペイン◆舞踊と音楽の物語
その２

前号では、ハバネラ誕生のいきさつから、歌劇《カルメン》のハバネラにまつわるお話までを書かせていただいた。記録に残された最初のハバネラとして、前号では《El amor en el baile》(1842年)をご紹介したが、現在のところ、さらに時をさかのぼって1829年にハバナの新聞に掲載された《El abufar》が第1号となっているようである。いずれにしても、スペイン語圏ではもっと早い段階からハバネラによる歌が口ずさまれていたことは間違いない。

さて、スペインに入ったハバネラにはどんなことが起きたのだろうか？　今回はその一端をお話ししてみたい。

19世紀半ばに作曲されたイラディエルの《ラ・パロマ》は、世界初の国際的流行歌であった。その30数年後、さらに流行をみたのが、ハバナ生まれの作曲家・ピアニスト・教育者、エドゥアルド・サンチェス・デ・フエンテス(1874-1944)が生み出したハバネラ、《Tú(君)》である。1892年に作曲され(1890年説もある)、のちに兄弟のフェルナンが詞をつけたものが1894年に出版された。「燃えるような太陽の美しい島、キューバ／その青い空の下／すべての花々の女王／それは、愛らしい小麦色した君(tú)……」これが大変人気を得て、初の“純キューバ産”ヒットソングとなったのだった。

出版の翌年、第二次キューバ独立戦争が始まると、その名も《クーバ》としてキューバ讃歌になり、スペイン側兵士、キューバ独立軍側兵士の双方が、それぞれ自陣営の歌として合唱するという現象まで起きたのだった。この折は、「キューバ人たちよ、天からの声が響きわたる／困難な戦いにある／俺たちに勇気を与えるために／愛国の賢者は／勝利にとりかかった……」という、兵士たちを鼓舞する勇ましい歌詞に替えられている(ホセ・A.ラミレス作詞)。そしてキューバからの移民によってメキシコに伝わり、当地で革命歌にもなったのだった。また、スペイン人兵士たちが本国に持ち帰り、アンダルシアのカディスやカタルーニャでも替え歌となって愛唱されたという。

オリジナルの《Tú》は、1898年にキューバ人ソプラノ歌手のチャリア・エレラ(1864-1948)によって初めて録音されていて、現在youtubeで聴くことができる。

キューバをめぐる戦争とハバネラの興味深い結びつきはまだある。1898年、キューバ独立戦争にアメリカが介入して米西戦争に発展、スペインは敗北しわずかに残っていた植民地のほとんどを失う。生き残った兵士や失職した商人がスペインへ引き揚げてくると、今や幻となってしまったキューバへの郷愁もあいまって、ハバネラは大流行をみる。19世紀スペインにおいては、町から町へと歌い歩く盲目の歌い手や、世紀後半から人気を博していたサルスエラ(スペインの歌芝居)がハバネラ浸透に一役買っていたが、そうして定着したハバネラを、人々は「キューバの化身」のように愛したのではないだろうか。

例えばタベルナ(居酒屋的な食堂)は、しばしばハバネラ歌いの格好の場所となった。海に出られないとき、また農作業ができないとき、男たちはタベルナに集まっては飲み、ハバネラを歌った。また、カタルーニャのように合唱が盛んな地域では、ハバネラの合唱をプロが指導することもあった。

しかしその後、20世紀も半ばになると、昔からの純粋なスタイルよりも、他の流行り歌の影響を受けたものが多くなり、ハバネラ熱は下火になっていった。

そんななかで、ハバネラの伝統を復活させた町がある。

カレリャ・デ・パラフルジェリの青いビーチ

まず、カタルーニャ北部、地中海に面した小さな漁師町カレリャ・デ・パラフルジェリ。ここでは20世紀初め、海の男たちがキューバを懐かしんでハバネラを愛唱していた。やがて時を経て、町に伝わるハバネラを集めて記録した『カレリャ・デ・パラフルジェリとハバネラ』という本が1966年に出版される。その折、かかわった人たちが出版を祝ってタベルナに集まり、ハバネラが歌われた。それが、今でもこの町の浜辺で盛大に開催される「ハバネラ・フェスティバル」の始まりである。毎年7月最初の土曜日に行われるこのイベントは、カタルーニャ・ハバネラの代表曲《El meu avi(僕のお祖父さん)》で最高潮に盛り上がる。作曲者はオルテガ・モナステリオ大佐(1918-2004)、軍人ながら音楽を愛好し、120曲以上のハバネラを作曲した人物である。この《El meu avi》は、まさに米西戦争を歌っている。カレリャ・デ・パラフルジェリの同胞を乗せた「カタルーニャ号」の艦長としてキューバに戦いに行き、死んでしまったお祖父さんを誇る内容で、米西戦争に赴いた作曲者自身の祖父の実話が投影されていると言われる。ちなみに、サビに「カタルーニャ万歳」とあり、時にカタルーニャ愛国の歌としても機能しているようだ。

もうひとつ、意外なことに、内陸のカスティーリャ・イ・レオンはバリャドリード県、マジョルガ・デ・カンポスという町にもハバネラの物語がある。記録によると、この町からは66人が米西戦争に出かけ、うち37人が生還したという。カリブの海で命を落とした男たちを、人々はハバネラを歌って称え、偲んだのである。そして、こちらもやはり、ハバネラに関する書籍『カスティーリャはハバネラを歌う』の出版(1991年)をきっかけとしてハバネラ復興の機運が高まり、1993年から毎年フェスティバル(Trovada de habaneras)が開かれている。こちらは7月最後の週末なので、ハバネラを求めて7月のスペインを旅してみるのもよいかもしれない。

次号は再び新大陸に戻って、ハバネラの旅を追っていく予定。

下山静香 / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。99 年、文化庁派遣芸術家在外研修員として渡西、マドリード、バルセロナほかで研鑽。NHK-BS、E テレ、フランス国営ラジオなどに出演。海外アーティストとの共演多数。CD《ゴィエスカス》《ショパニアーナ》など 10 枚、共著は 10 冊以上を数える。翻訳書『サンティアゴ巡礼の歴史』。2015 年より「下山静香とめぐるスペイン　音楽と美術の旅」ツアーシリーズを実施。桐朋学園大学、東京大学 非常勤講師。日本スペインピアノ音楽学会理事。
Official Web Site　http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf
裸足のピアニスト・下山静香のブログ　http://ameblo.jp/shizukamusica
★ 第 10 弾 CD《ライブ・イン・アルパラシン》(molto fine) 好評発売中!

Información

★ 7/21(土) 寺島貴恵(ヴァイオリン)&下山静香 リサイタル(富士市・ハウスゾンネンシャイン音楽堂)
★ 8/30(木) 18:45　下山静香 魅惑のクラシック☆夏の夜に贈り物
ドビュッシー没後100年&バーンスタイン生誕100年」東京公演 (汐留ホール)
★ 8/31(金) 19:00　下山静香 魅惑のクラシック☆夏の夜に贈り物 vol.9
「ドビュッシー没後100年&バーンスタイン生誕100年」
(桐生市市民文化会館 小ホール)
★ 10/4(木) 19:00　下山静香 PIANOライブ「ラテンアメリカに魅せられて」vol.9 〜日本アルゼンチン修好120年記念・下山静香ニューアルバム《Alma errante》発売記念〜

裸足のピアニスト

下山静香 著

書　評

川成 洋

■株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
■2017年11月刊
■定価 1,800円+税

本書は、今や「スペイン音楽の伝道師」としてスペインとラテンアメリカのピアノ曲を牽引している第一人者・下山静香氏の本格的なエッセイ集である。

著者は、いよいよ20代の終着点が見えてきた頃、「スペインが私を呼んでいる、という妙な確信につき動かされて」スペイン行きを決意する。その後の行動はまさに電光石火の速さだった。まず、文化庁の芸術家在外研修員に応募する。スペインで受け入れてくれる先生を捜す。ウィーン郊外での講習にスペイン人の先生がやってくるという噂を耳にし、早速、講習への参加を申し込み、ウィーンへ飛ぶ。実際に先生の講習を受け、スペインでの研修員応募書類に推薦文とサインをもらう。この先生はマドリード在住のロサ・マリア・クチャルスキ。「自分のスタイルを押しつけるのではなく、その人の個性を尊重したうえで、よりよい方向に導いてくれるタイプ」の先生だった。この先生なら大丈夫。しかもぜひいらっしゃい、と言葉をかけてもらい、さながらブーメランのごとく日本に舞い戻り、文化庁の2回の難関試験にパスして、マドリードに到着する。いよいよ「音楽生活リセット」、別言すれば、「マドリードの果敢な冒険」が始まる。

著者がマドリードで得た最初の体験は、ちょうど到着時に執り行われていたカトリックのセマナ・サンタ(聖週間)の宗教行事であった。聖週間最後の3日間で行われる教会ごとの「十字架の道行き」行列との遭遇。画家ムリーリョ――17世紀後半の対抗宗教改革運動において、宗教的かつ美的な理想を表現した代表的な画家――の《無原罪の御宿利》を嚆矢とする聖母マリア像とは異なり、おそらく著者が目にしたのは、幾分派手な衣姿の、大粒の涙を流す聖母マリア像であっただろう。その路上をゆっくりと進む行列に合わせて2階の窓から投げかけられる「サエタ」と呼ばれる、一種の短い聖歌……。

このマドリードで、先述のロサ・マリアの指導のもと《アランフエス協奏曲》で知られるホアキン・ロドリゴのピアノ曲全曲を勉強した著者は、2年後のロドリゴ生誕100年を記念する本格的な「ロドリゴ・イヤー」にスペインのみならず、近隣諸国においても演奏することになった。

それにしても、特筆すべきことは、市井のスペイン人の音楽への姿勢である。

マドリードから車で2時間半の、ブルゴス県のコバルビアスという村での出来事。著者はこの村での講習会に参加し、その仕上げとして受講生がその村の教会で演奏する。演奏開始の時半後には教会の聖堂は村人たちでびっしりとなっている。それも、終日続いた演奏会はすべて満員だった。帰り道、路上で雑談している村人たちから「オラ！　ピアニスタ・ハポネシータ！」と声をかけられる。そこで飲んだり話し込んだり……。また別のところでは、先生の別荘、あるいは古城や屋敷のある村での講習に参加した受講生が最後に演奏会を行う。近隣の人びとが一張羅でめかし込んで音楽を聴きに来ている。なんとも微笑ましい光景であり、絶えず前進しようとする若い音楽家の背中をそっと押しているのだ。

マドリードでの1年間の生活を終えたところで、彼女はバルセロナに移り、マーシャル音楽院のマスター・コースに通う。ここでフェデリコ・モンポウの夫人、カルメン・ブラーボの指導を受け、モンポウ作品のほぼすべてを網羅できたのだった。バルセロナの後、アラゴンの州都サラゴサに移る。サラゴサは「寝ても覚めても、スペイン音楽」総仕上げの格好の場であった。こうして、スペイン民族の歴史と密接不可分なスペイン音楽の豊饒な魅力を吸収することができたのである。

新西班牙語事始め
―スペイン語と出会った日本人

浅香武和 著

書　評

■論創社
■2018年2月刊
■定価 2,500円+税

日本人のスペイン語とのはじめての邂逅は、1549年、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルの来日とキリスト教の伝来、と誰でも暗記している。もちろん、その通りなのだが、この大航海時代の覇権をめぐるスペインとポルトルの関係について確認しておきたいことがある。ザビエルはスペインのライバルであるポルトガル国王ジョアン3世(在位1502～57年)の庇護の下で、ポルトガル船に乗り込み、喜望峰を廻りインドに赴き、そこから日本へ向かったのだった。その6年前の1543年、ポルトガル船が種子島に来航し、鉄砲を伝え、翌1544年、同じくポルトガル船が鹿児島に来航した。つまりこの頃の日本人と南蛮人(スペイン人・ポルトガル人)との交流は、もっぱらポルトガルがアジアに築いた貿易ネットと、ポルトガルの布教保護権下にあったイエズス会の布教活動を通じてであった。こうした状態は、ミゲル・ロペス・デ・レガスピのマニラ征服によってスペインがアジアの最前線拠点を築いた1571年まで続き、その年スペインの皇太子フェリペの名にちなんで「フィリピン」と命名する。これでスペインは太平洋航路を開拓し西回りでアジアに到達することができた。それ以降、本格的な日西関係が開始されたといえよう。

それにしても、ザビエルをはじめとする宣教師たちは、たとえヤジロウのような通訳がいたとしても、日本人への布教は大変だったはずだ。日常の言葉のみならず、宗教的なコミュニケーションによってキリスト教の教義や典礼を伝えなければならなかったが、果たしてどれほど理解されたであろうか(ちなみに、宗教の自由が認められている現在の日本において、カトリックとプロテスタントの信者数を合わせて、キリスト教徒は全人口の1%に過ぎない)。それゆえ、たとえば、キリスト教の神を「大日」(真言宗の大日如来の略。これが間違いだと認識して、「デウス」に変更)、聖母マリアを「観音」などとしたために、キリスト教は「天竺宗」なる仏教の一派とみなされていたこともあったようである。

本書によると、こうした困難の中で、司牧に携わる聖職者を養成するため九州の数ヶ所に、セミナリオ(神学校・中学堂)、コレジオ(大学堂・大学林)、ノビシャド(修練所)などが設立された。しかし、1587年の秀吉の「バテレン追放令」によりこうした学校や教育施設は解散や移転を余儀なくされた。そうした中で、1591年から10年の間に天草のコレジオでは各種の書籍が出版されている。伝道用の宗教書を嚆矢として『ラテン語文典』や『ラテン語・ポルトガル語・日本語対訳辞典』などの語学書もそこには含まれていた。また、コレジオが長崎に移転してから『日葡辞書』(1603)、マニラ版『日西辞書』(1630)、さらにローマでドミニコ会士コリャード編『ラテン語・スペイン語・日本語辞書』(1632)などが刊行された。

徳川幕府の鎖国下1616年以降にあって、スペイン語を話す異国に辿りついた日本人漂流民が見聞した情報もあった。1841年、兵庫を出港した栄寿丸が太平洋上で激しい北西の風に煽られて、120日あまり漂流したが、幸いにもスペイン船に13人全員が救助され、60日後にメキシコに上陸することができた。2年後、あるいは4年後に、長崎に帰朝する者もいた。その中の1人、21歳の沖船頭善助、さらに少し遅れて帰国した紀州藩出身の与市に対する、数ヶ月間にわたる聞き書き調査をした紀州藩徳川家家臣岩崎俊章が『東航紀聞』10巻を上梓した。この見聞録には、スペイン統治下のメキシコの事情、現地のスペイン人、メキシコ人の生活状況、日常的なスペイン語などが克明に記されている。やがて明治になり、明治24年9月の新学期に、高等商業学校のカリキュラムに外国語選択科目としてはじめてスペイン語が加えられる。これこそ、我が国における本格的なスペイン語教育・研究の黎明を告げるものであった。

川成 洋
Yo Kawanari
1942年札幌で生まれる。北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修了。社会学博士(一橋大学)。法政大学名誉教授。スペイン現代史学会会長、武道家(合気道6段、杖道3段、居合道4段)。書評家。主要著書:『青春のスペイン戦争』(中公新書)、『スペイン一未完の現代史』(彩流社)、『スペイン一歴史の旅』(人間社)、『ジャック白井と国際旅団―スペイン内戦を戦った日本人』(中公文庫)他。

スペイン味うぉっちんぐ

第２回　米

❶かつては海の一部であった湖の水田の土壌には今も貝殻などが残っている。ミネラルを含む栄養素が多く質の良い米となる　❷収穫された米の 60%が精米となり、残りの 40%は家畜用の籾がら、ふすま、砕き米となり、最終的に剥がれる精米の発芽部分も、ふすまと一緒に利用されている　❸１万年前から現在までの地形変化を表すイラストマップ。ドラゴン同様、巨大クジラの存在も謎である　❹自然公園でもあるアルブフェラ湖をぐるりと遊覧できる小舟が湖畔の数箇所から出ている。一周約 45 分で野鳥ウォッチングも楽しめる

バレンシア市内より約10キロ南方に位置するアルブフェラ湖一帯は自然公園にも指定されるスペイン最古の水田地帯である。“Albufera”の名はアラブ語で「小さな海」を意味する“albuhayra”を語源とし、8世紀後半にアラブ人によりもたらされた稲作技術と灌漑技術は、この一帯を基点にセビーリャや、エブロ河といったスペイン各所へ広げられていったそうだ。

今やスペイン料理の代名詞的存在の“パエリア”は、実際にはバレンシア地方の郷土料理にほかならず、パエリア発祥の地とされる湖畔の小さな村エル・パルマールには、昔ながらの薪炊きパエリアの店が沢山ある。村人が各自で捕獲、飼育、栽培した食材を持ち寄って作ったのが始まりで、今でも、この辺りでは湖の鴨を使うことが多いらしい。“バレンシア風パエリア”に投入しても許される食材に暗黙の了解があるのが理解できる。

表面積21,000ヘクタールにも及ぶ大きな湖は、1万年以上前は地中海に向けて広がっていた湾口だった。湾を挟んで西方から海に流れ込む二大河川の河口部の砂が水圧により少しずつ押し上げられ、18世紀頃には一部の水門を除き、ほぼ完全に湖と海は隔てられたのだという。その後、水を塞き止め、別の場所より小舟で泥を運び入れる作業が延々と進められ、約70年前には湖全体の4/5が水田に開墾されたらしい。

ちなみに、遊覧船乗り場にある1万年前の歴史イラストマップには地中海にドラゴンの絵が描かれているが、実在したのかどうかはスペイン人のすることなのであまり本気にしない方がいい。

バレンシア一帯を原産地とする主の米品種はジャポニカ種。短粒種で円粒種という形状は日本の米とほぼ同じで、水分吸収が良く味わいがありふっくら炊けるのだが、決定的な違いは「粘り気」。同じ米にして「粘り気」が圧倒的に少ないという日本産とスペイン産での差は、米だけでなく人にも通じるのだと妙に納得する。

国内に約300種ある米品種のうち、バレンシアのDOPとして原産地呼称認定を受けているのは3品種。前年度、収穫した米ではなく、統制委員会により手渡される純粋な品種のみが翌年の稲作に使用されているという。

スペイン人の米の消費量は年間平均7キロらしいが、バレンシア人の場合、日曜日の恒例パエリアを含み、昼食を中心に週3回は軽く米料理を食べている。加えて、夕食も米料理が登場する我が家が平均消費量を上げているのは言うまでもない。

❺オレンジの木の薪でパエリアを炊くのもバレンシアならでは。薪の木の種類によってパエリアの味わいが変わるのが面白い　❻米メーカー Arroz Tartana の造る米由来のクラフトビールはグルテンフリーで超美味！　興味のある方は私までご連絡を　❼ Bomba、Albufera、J .Sendra とそれぞれ性質が異なり、作る料理、調理法、求める米の仕上がり、その時の状況や条件によって米を選ぶ必要があるのだという

今回、取材した米メーカーArroz Tartanaでは、水田見学やパエリア実習（10名以上のグループ対象）についても相談可能です。なお、バレンシア米、この米を使ったグルテンフリービール、甘すぎずにさっぱり飲みやすい米リキュールはいずれも日本未上陸。輸入、ツアー参加にご興味のある方は下記のアドレスまでお問い合わせください。

片岡治子 / Haruko Kataoka
大阪府出身。1991年より渡西。スペイン全土を食べ歩きの後、スペイン家庭料理研究家として料理教室を主催する他、WEBや雑誌等のレシピ・コラムの執筆を手がける。スペイン国内で営業業務、某ワイナリーの販売業務を経て、バレンシアを拠点に日本市場に向けて食材・飲料の輸出業務を中心に行う『オルカ・スペイン　ORTIZ&KATAOKA, S.L.』経営。一夫二男一女一匹と共にスペイン田舎生活現在進行中。
オルカ・スペイン　www.orkaspain.com / orka@orkaspain.com

水彩画だより

スペインの風景に魅せられて vol.5

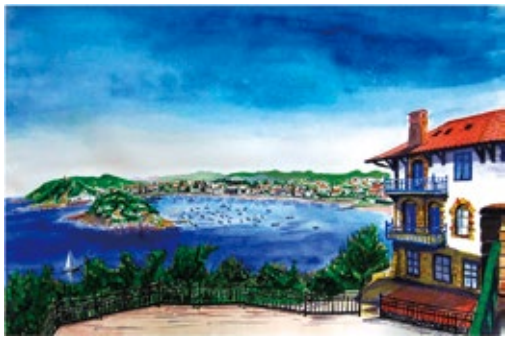
スペインの各地を旅するとき、世界遺産、パラドール、白い家と花通りなど、多くの場所で個性的で美しい景色に遭遇し感動します。その思い出を水彩画で楽しく表現しました。

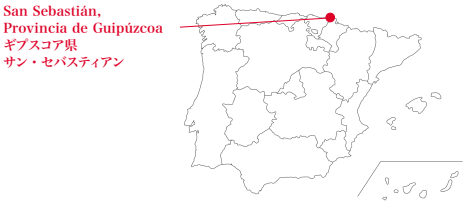
San Sebastián (Donostia)

想い出のひととき―真夏のコンチャ海岸

ドノスティア（バスク語）またはサン・セバスティアン（スペイン語）は、スペイン・バスク州ギプスコア県の県都である。「ビスケー湾の真珠」と呼ばれる美しいコンチャ海岸のある町だ。19世紀にはスペイン王家の保養地となり、以来、高級避暑地として知られている。市街は清潔、安全でバルやレストランが多く、タパスやピンチョスの食べ歩きが楽しい。

コンチャ海岸の入江は両端にそびえる2つの丘のイゲルド山とウルグル山に挟まれ、その眺め、群青色の海に白帆の船が浮かぶ景色は感動的な美しさである。





〈上〉イゲルドの山からの眺め
〈下〉ウルグルの山からの眺め

絵は現地の語学学校 Lacunza Internacional ノートブック表紙に採用

牧瀬貢 / Mitsugu Makise

一般社団法人横浜スペイン語センター前理事長。横浜市戸塚区在住。1961年、ブリヂストン横浜工場にエンジニアとして転勤、ここを拠点に数多くの国内・海外経験を積む。ドイツ、カナダ、米国、イギリス、スペインに駐在。短期的な出張含め世界100ヶ国を経験。とりわけ、最後の駐在地スペインの風土、国柄に惚れ込み、北部バスク・ビルバオに駐在、休暇中に17州51県をくまなく廻り、また定年後、思い出の場所での絵画制作を楽しむ。

スペインのお勧め
バール・レストラン
Bares y restaurantes recomendables

Vol.20 Restaurante Manolo Mayo

マノーロ・マヨ (Los Palacios y Villafranca ロス・パラシオス・イ・ビジャフランカ)

マドリードからの AVE が到着するサンタ・フスタ駅から車で 30 分ほど南下すると、ロス・パラシオス・イ・ビジャフランカという小さな町がある。その町で行われるラ・ミステラ・フラメンコ・フェスティバルの取材で、町の中心地にあるマノーロ・マヨというホテルにお世話になることになった。

この町の西側のグアダルキビル川流域は、トマトなどの野菜の産地であり、特に欧州最大の米の産地でもある。また、季節によっては湿地帯のカモなどのジビエも楽しめるし、カディスやウエルバなども近く、新鮮な海の幸も豊富とあって、地元産の食材を使った美食がリーズナブルに楽しめる町として、セビーリャなどの近隣からも訪れる人も多いそうだ。

私たちも町のいろいろなレストランやバルで食事を存分に楽しんだが、宿泊したホテル併設のレストランが特にお気に入りで、6日間ほどの滞在の間、何度もお世話になった。通りに面したバルには、夜になると宿泊客だけでなく地元の人々が集まり、タパスなどを楽しむ人々であふれる。その奥はレストランになっており、貸し切りできるサロンもある。

レストランの料理もバルのタパスもどれも美味しかったが、必ず試すべき一皿をあげるとすれば、ウズラの米料理 Arroz con perdiz だろう。スペインの米料理といえば、シーフードパエリアなど魚介系をイメージする人が多いと思うが、この町では肉系の米料理も美味しかった。地元産の野菜とウズラの濃厚なスープで地元産の米を煮込んだ雑炊は、忘れられない美味しさだ。

1生ハムの足に見立てたエビとチーズの春巻きなど、遊び心ある8皿のタパスが楽しめるMenú de degustación　2地元産の野菜と米などを最大限に楽しめるウズラの米料理。スタッフのサービスの質も非常に高い　3ウエルバ産のランゴスティーノ。シンプルに塩焼きで　4グラナダの伝統菓子ピオノノに見立てたパンとムースと小エビのフライ　5オーナーのホセ・フランシスコ・マヨ氏に地下のワイン蔵に案内してもらった

中村 美和 / Miwa Nakamura

情報工学修士、日本での電機メーカー勤務を経て、2007年に渡西。マドリードにていくつかの企業のウェブシステム開発等に携わった後、CROSSMEDIA WORKS,S.L.を起業。主に観光や食に関わるプロモーションや、雑誌、ガイドブック、テレビなどの取材コーディネイトの他、マドリード情報を発信するtodomadrid.infoなどを運営。
@n_miwa @spain_go

Información

Restaurante Manolo Mayo（マノーロ・マヨ）

住所：Avda. de Sevilla 29, 41720 Los Palacios y Villafranca, Sevilla
電話：+34 955 811 086 / 955 810 795
HP：www.manolomayo.com
※上記情報は、2018 年 7 月時点のもので変更する可能性があります。

Instituto Cervantes

Reportaje de eventos

Instituto Cervantes de Tokio

イベントレポート
インスティトゥト・セルバンテス東京

元ロードレーサー、ペリーコ・デルガド氏来日

インスティトゥト・セルバンテス東京は、スペイン語教育の推進とスペイン語圏諸国の文化を広める活動に取り組んでおり、2018年も音楽、芸術、文学など多岐にわたるジャンルの文化イベントを開催しています。

今回取り上げるのは、6月6日（水）に開催された「ペリーコ・デルガドが見たスペイン」です。スペイン、セゴビア出身の元プロロードレーサーであり、「ペリーコ」の愛称で知られるペドロ・デルガド氏をインスティトゥト・セルバンテス東京に招いてトークイベントを行いました。フランスの「ツール・ド・フランス」での優勝、そしてスペイン最大のロードレース「ブエルタ・ア・エスパーニャ」では2度の優勝を誇り、日本にも多くのファンをもつデルガド氏。

サイクリングウェアの開発を行ってきた井上大平氏を聞き役とした今回のトークでは、これまで出場したスペインロードレースのルートの中でも彼を魅了した景勝地の数々をご紹介くださいました。「ブエルタ・ア・エスパーニャへの参加がきっかけとなり、ガリシア地方のエサロや、バスク地方ビスカヤ県にあるオイス山のような場所に出会うことができた」とのことです。また、サンティアゴ巡礼路を自転車で旅する人が毎年増え続けているという情報も。自転車で旅することで、その国の新しい一面を発見しながら、その文化をより深く知ることができるということを伝えてくれました。

引退後の現在はテレビやラジオのコメンテーターとして活躍しながら、スポーツを通じて幅広い活動を続けていらっしゃるデルガド氏。3人の息子さんのうち2人が日本語を勉強しているという、日本人ファンには嬉しいエピソードを伺うこともできました。

質疑応答では参加者からの質問が相次ぎ、講演後は写真撮影や、ファンのTシャツへのサインを快く引き受ける姿も見られました。セルバンテスでのイベント後は、今回の来日のメインイベントであるサイクルレースMt.富士ヒルクライムに参加しました。これは、難病とされるデント病の認知を目的として彼の友人が主催するアスデント基金のサポートをするためで、現地でも多くのサイクリストとの交流を果たしたそうです。

今後も、インスティトゥト・セルバンテス東京では多くの人々に関心をもっていただけるよう、様々なイベントを企画していきます。特に今年からは専門分野を一般の方にも楽しんでいただけるアカデミック・フォーラムと題した講演会も始まりましたので、ぜひお見逃しなく！

文＝ヴィルジーリオ麗奈

ペドロ・デルガド / Pedro Delgado
1960年生まれ、セゴビア出身。「ペリーコ・デルガド」の愛称で親しまれる。1982年にロードレーサーとしてプロデビューし、1985年と1989年のブエルタ・ア・エスパーニャで優勝、1988年のツール・ド・フランスで優勝している。その後も毎年グランツールで総合トップ10位以内に入賞し、1994年のブエルタ（3位）を最後に現役引退。現在はスペインのサイクルツーリズムについて各地で講演するなど、コメンテーターとして活躍している。

1 井上大平氏と対話形式でのトークショー
2 ファンのTシャツへのサインにも対応
3 2位と7分以上の差をつけて制した1988年のツール・ド・フランス

ブエルタ・ア・エスパーニャ
La Vuelta a España

欧州プロロードレースの1つ。ツール・ド・フランスとジロ・デ・イタリアと合わせてグランツールと呼ばれる。この中ではツールが世界最高峰のレースとして有名だが、それぞれに地理的特色があり、ブエルタのコースは山がちで激坂が多く、クライマー型の選手に有利なレースである。毎年8月下旬～9月中旬に開催される。

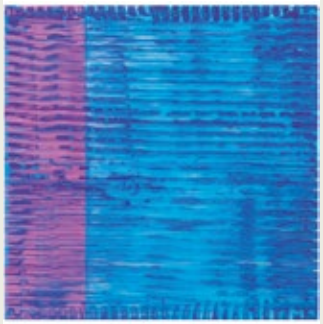
美術展『Este-Oeste 2018』

東西の美をめぐる旅

EVA SAKAI

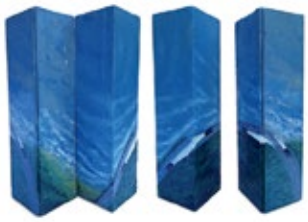
Exposición de arte "Este-Oeste 2018"

Un viaje alrededor de la belleza del Este y el Oeste



SUSANA FISAC

KUMIKO FUJIMURA



MIGUEL M. MASSA

SILVIA FLECHOSO

MIGUEL M. MASSA

PABLO ALFARO

MARC JANUS

EVA SAKAI

KUMIKO FUJIMURA

FUMIKO NAKAJIMA

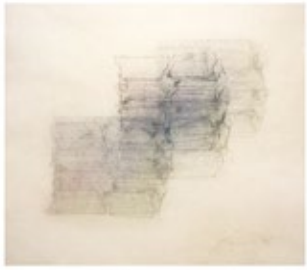
SILVIA FLECHOSO

SUSANA FISAC

MARC JANUS

PABLO ALFARO

MIGUEL M. MASSA



FUMIKO NAKAJIMA

2018年6月4日、日本とスペインのアーティストらによるグループ展「Este-Oeste 2018」が、マドリードのHotel Miguel Ángelにてスタートした。

本美術展では、日西商業会議所の協力のもと、Roxa OrtizとGastón Ortollの2人のディレクターの呼びかけにこたえ、計8名のアーティストらが参加し、ホテル内のギャラリーにて30日まで作品が展示される。

2013年に引きつづきマドリード市内で行われた第1回「Este-Oeste」美術展は、日西交流400周年事業の一環として開催されたが、第2回となる今回の美術展は、日本スペイン外交関係樹立150周年を記念して、全42作品が集められ、約1ヶ月の会期期間に展示される。

今回の美術展も前回に引き続き、色彩と図像を介して東西を旅するというテーマで企画され、Pablo Alfaro、Susana Fisac、Silvia Flechoso、Kumiko Fujimura、Marc Janus、Miguel M. Massa、Fumiko Nakajima、Eva Sakaiといった日本とスペインを拠点とするアーティストたちによって作品が制作された。卓越したアーティストたちの手による伝統的なスタイルの絵画から、革新的なモダンアートまで、それぞれに個性あふれる作品が、ホテルのロビーに隣接した回廊内に展示される。

展示される作品は、アクリル画、油絵、水彩画、水墨画や、和紙を使ったコラージュなどその表現技法も多岐にわたり、美術展初日に訪れた招待客たちは、日本とスペイン、東西2つの国のそれぞれの対照的な「美」へのアプローチを楽しんだ。

また、初日の6月4日にギャラリーにて行われたオープニングでは、ムルシア州のD.O. Yeclaのワイナリー LA CASA DE LAS ESPECIASのワインが招待客らに振舞われた。日本の女性審査員だけによる初めての国際ワインコンペティションSAKURA AWARD 2018にて、「スペインで最良の赤ワイン」と称され、ダイアモンドトロフィーを受賞したTEMPRANILLO-SYRAH 2016、同コンペのダブルゴールドをはじめ多くの賞を獲得したPETIT VERDOT-SYRAH 2016、PETIT VERDOT-MONASTRELL Tinto 2016と同社の3種のワインが、アート作品に華を添えた。

日西商業会議所

Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介いたします。

スペイン情報誌
季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5

Cámara de Comercio Hispano Japonesa
日西商業会議所
1954 64 2018

Cámara de Comercio Hispano Japonesa
www.camarajaponesa.com/ja
camara@camarajaponesa.es ☏ (+34) 91 851 12 11
✉ Apartado 10124 – 28080 MADRID - SPAIN

Pastelería Dulce Mina

スペイン菓子工房
ドゥルセ・ミーナ
ーポルボロン、トゥロン手作りの店ー

茨城県守谷市ひがし野3-11-2
TEL 0297-45-2740
http://dulcemina.jp/

確かな技術と音楽する心を育てる
吉川二郎ギター教室
初心者歓迎！

コンサートフラメンコギター
クラシックギター＆ギタルパ

花屋敷教室（宝塚市）
天満橋教室（大阪市）
東京教室（月1回）
静岡教室（月1回）
ギターサークルJIRO（富士市）

お問合せ・入会のお申込みは
TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで
吉川二郎　検索

スペインタイルの絵付け教室
＆手作りタイル販売
スペインタイルアート工房
Tokyo/Osaka

大阪市西区南堀江 1-20-23-1003
Tel & Fax 06-4390-6545
Email: spaintile@japan.email.ne.jp
http://spaintile.art.coocan.jp/

西宮市国際交流協会
スペイン語
おしゃべりの会
"Venezuela,Tierra de Gracias"
（ベネズエラ、恵みの地）
2018年9月16日（日）14:00～15:30
ゲスト：Fernando Marcano（ベネズエラ出身）
会場: 兵庫県西宮市池田町11-1 フレンテ西宮4 階
TEL: (0798)32-8680 FAX: (0798)32-8678
Email: niairuka@chive.ocn.ne.jp
参加費：500円　定員：30名（先着順）
お申込みは電話、FAX、Emailで / 8月27日（月）より

San Andre
スペイン菓子
サン・オノフレ
〒851-2106
長崎県西彼杵郡時津町左底郷290-1
TEL: 095-860-8180　FAX: 095-860-8181

好評
スペイン語、もっと先へ！

渡辺克義 / エフライン・ビジャモール・エレロ 共著
A5 変型判　173 頁　CD 付　定価 1,728 円
「読解力」,「表現力」をもっと身につけたい学習者に！
●会話中心の読みやすい文章●一歩上の文法解説
●大学の入試過去問題（和訳・作文）をたっぷり掲載
●付属の CD で聴き取り練習もできます！
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 363　★価格は消費税 8% 込みです
Tel. (03)3267-8531　Fax. (03)3267-8606　http://www.daisan-shobo.co.jp
第三書房

スペインの食文化をより楽しめる選りすぐりのワイン輸入・販売
Estarico Japan Co., Ltd.
株式会社エスタリコ・ジャパン
「これ、美味しい！」を通じて、日本とスペインの架け橋に
〒108-0074　東京都港区高輪 1 丁目 4-23-1401
tel. 03-3443-9580 / mail. akihiro@estarico-japan.com
https://www.estarico-japan.com

フラメンコ大国日本だから
可能になった、最高峰の舞台！
あなたの何かが変わる夜。

TABLAO FLAMENCO
GARLOCHÍ
タブラオ・フラメンコ "ガルロチ"
http://garlochi.net
〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-15-17 伊勢丹会館 6F

ディエゴ・ベラスケス《王太子バルタサール・カルロス騎馬像》1635 年頃
マドリード、プラド美術館蔵　© Museo Nacional del Prado

スペイン語 ADELANTE の仲間と行こう！
www.adelante.jp
「プラド美術館展」神戸展
8 月 26 日（日）12:00 ～

参加費　2,000 円（美術館入場券含む）
集合場所　スペイン語教室 ADELANTE 神戸校

当日プログラム（予定）
1 ADELANTE 神戸校で、スペイン人講師による作品解説
2 皆で兵庫県立美術館へ移動
記念コンサート～スペインの風～（チェロ、ソプラノ、ピアノ）
（場所：美術館アトリエ 1）※希望者のみ
3 館内自由観覧

お申込み・お問合せ：078-230-2022

W 企画！
読者プレゼント
「プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」
神戸展の観覧券を抽選で 10 名様にプレゼント！

ハガキまたは e-mail の件名に「プラド美術館展観覧券」と明記の上、住所、氏名、電話番号、『acueducto』の感想を書いて編集部までお送りください（お送り先は p1）/ 応募締切：2018 年 7 月 31 日（火）消印有効

ESPAÑOLÉ
MUCHO MÁS QUE ESPAÑOL

International House Valencia

最高のスペイン留学がかなう場所
バレンシア

およそ80万人が住む国際色豊かな都市
年間300日以上の晴天日
安全で良好な治安
パエリア、ショッピング、スペインバル、サッカー、ビーチ、歴史、文化、現代建築
フレンドリーな雰囲気と中規模サイズの学校
歴史的な街の中心地にある2つの近代的な校舎
教師は大学卒のネイティブスピーカー
58カ国以上からの学生たち
様々なニーズに合わせたスペイン語コース

Instituto Cervantes
Centro Acreditado

Instituto Cervantesは言語教育の研究機関であり、スペイン語圏の言語及び文化を世界に推進する政府機関です。

+34 963 530 404
sayaka@ihvalencia.com (日本語でお問い合わせ可)
www.espanole.es
www.espanole.es/jp (日本語サイト)

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

講師は
ネイティブ

レベル別
少人数クラス

振替オプション

一般参加OK
特別クラス

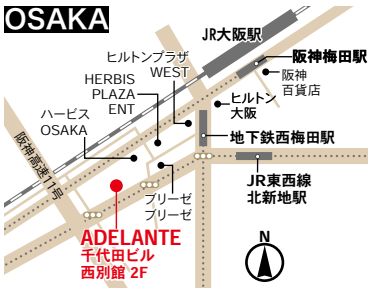
月謝払い

豊富なコース

スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

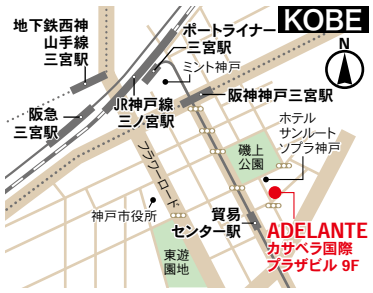
無料体験レッスン
随時実施中！
お気軽に
お問い合わせください

お問い合わせ



大阪校
TEL:06-6346-5554
大阪市北区梅田2-5-8千代田ビル西別館2F FAX:06-6110-5122

神戸校
TEL:078-230-2022
神戸市中央区磯辺通1-1-18 カサベラ国際プラザビル9F FAX:078-230-2023



info@adelante.jp

スペイン語の本&雑貨
オンラインショップ アデランテ
ADELANTE

学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、
D.E.L.E.試験対策本、絵本など各種取り扱っています。

www.adelanteshop.jp
携帯・スマホからはこちらへQRコードを読み込んでHPへ

Estudiar en el extranjero

スペイン・中南米への留学手続代行

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします。

留学相談、手続き代行無料サービス

- スペイン91校、中南米23校と提携
- 担当スタッフは全員留学経験者
- 実際にスタッフが現地視察しているので安心

スペイン人スタッフが在籍
スペイン語圏留学専門
代行手数料0円

携帯・スマホからはこちらへQRコードを読み込んでWEBへ

本誌28-29ページに学校情報、お手続きの手順を掲載しています。ご参照ください。

資料請求／お問い合わせ
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp

5都市にご相談窓口
大阪 ☎ 06-6346-5554 | 神戸 ☎ 078-230-2022 | 名古屋 ☎ 052-766-6406
東京 ☎ 03-6869-6435 | 福岡 ☎ 092-517-9535 | 受付時間 月～土 8:30–21:30 有限会社 ADELANTE